

町内遺跡発掘調査等事業報告書Ⅹ 調査編

上ノ国市街地遺跡（山本吉春氏宅地点）

史跡上之国花沢館跡分布調査

2006・3

上ノ国町教育委員会

序

昨年に引き続き降雪量が多く寒い冬でしたが、フキノトウも姿を見せ始め、ようやく春の息吹が感じられました。

教育委員会では、勝山館跡直下の町場の形成や町内の遺跡の所在を確認し、保存保護を図るために、平成9年度から詳細遺跡分布調査事業を行っています。これに前後して、勝山館跡直下の字上ノ国地区では6件の個人住宅建替えなどに伴う発掘調査が併行して実施され、現市街地のほぼ全域で縄文から江戸時代に至る遺構や遺物が発見されました。また、平成11年度に実施した重要文化財旧笹浪家住宅保存修理に伴う調査では、上ノ国のアイヌ文化を示す重要な知見も得られました。これらの経緯から、平成13年にこの地区を上ノ国市街地遺跡として登録し、遺跡の保護に努めてきました。

本書は、平成17年度に実施した上ノ国市街地遺跡（山本吉春氏宅地点）の住宅建替えに伴う発掘調査と、上ノ国館跡保存管理計画書策定のための史跡上ノ国花沢館跡の内容確認調査の報告書です。上ノ国市街地遺跡（山本吉春氏宅地点）の調査で、縄文時代後期の生活面が確認されたのは本遺跡地内での新知見となりました。花沢館跡の調査では、昨年度の結果と併せ、この館は「コシャマインの戦い」前後から彌崎季繁が亡くなる頃までの非常に短期間存続していたことが想定されました。

本町では、中高一貫教育を進めておりますが、その中で郷土研究を行うことを通して「ふるさとを豊かに語る力」の育成を目指しています。また、小学校でのふるさとを教材とした総合学習も積極的に進められており、自分たちの身近な足元から掘り出される様々な情報は上ノ国の先人の歩みを知る生きた教材として子どもたちに新鮮な驚きを与えています。

最後に、調査を行うにあたり、土地所有者の山本吉春氏、並びに上ノ国八幡宮宮司松崎辰彦氏をはじめ、地域の皆さまから多くのご支援・ご協力を賜りました。衷心より厚く感謝申し上げます。

また、事業の遂行に際し文化庁記念物課をはじめ、関係各機関の諸先生方からご指導ご鞭撻を賜りましたことに深く御礼申し上げます。

なお、来年度以降引き続きこの事業を継続していく予定でございますので、文化庁記念物課をはじめ、関係各機関、諸先生方にはより一層のご指導を賜りますようお願い致します。刊行のご挨拶といたします。

平成18年3月

北海道松山郡上ノ国町教育委員会

教育長 金子 廣

例 言

1. 本書は平成17年度に実施した町内遺跡発掘調査等事業の概要をまとめたものである。

2. 発掘調査の体制は次のとおりである。

調査主体者 上ノ国町教育委員会

教育長 金子 廣

指導 史跡上之國勝山館跡調査研究専門員

仲野浩 東北芸術工科大学名誉教授

榎森進 東北学院大学教授

上ノ国町史跡整備検討委員会

仲野浩 東北芸術工科大学名誉教授

榎森進 東北学院大学教授

鈴木亘 鶴見大学講師

田中哲雄 東北芸術工科大学教授

宮本長二郎 東北芸術工科大学教授

渡辺定夫 東京大学名誉教授

主管 上ノ国町教育委員会事務局

文化財グループ

参事・主任学芸員 松崎水穂

主幹 小林 真

主査・学芸員 齋藤邦典

主事 瀧田俊一郎

発掘調査員 塚田直哉

文化財アドバイザー 久末久義

調査担当者 齋藤邦典

発掘調査員 塚田直哉

調査補助員 笠谷奈智子

竹内江美子

作業員 池田泰子 井越祥子 大谷弓子

岡野景子 奥寺京子 勝田百香

川口泰子 鈴木千春 鈴木真澄

目黒加奈子 森美奈子

3. 本書の編集は、齋藤・塚田が協議の上、塚田が行なった。

遺構・遺物の実測図と図版等の作成は、調査補助員・作業員が行なった。

4. 本書に掲載した写真の撮影は、35mmカラーリバーサル及びカラーネガの2種類のフィルムを使用した。

5. 挿図の縮尺は、各図ごとにスケールを付した。

6. 遺物の点数については、発掘現場での取り上げ点数を表す。

7. 土層の色調観察には、「新版標準土色帳」（農林水産技術会議事務局1993）を使用した。

8. 本書に掲載している遺物には観察表を付し、法量及び諸特徴を一覧できるようにした。

また、表中の（ ）については、欠損などして残存している現存値を示す。

9. 出土遺物、調査写真・図面等は、上ノ国町教育委員会が管理・保管している。

10. 調査ならびに本書の作成にあたり、次の関係機関と各位からご指導、ご助言を頂戴した。

記して感謝申し上げます（敬称略）。

文化庁記念物課 坂井秀弥 岡田康博 玉田芳

英 北海道教育庁文化課 田才雅彦 長沼孝

中田由香 北海道埋蔵文化財センター 越田賢

一郎 伊達市噴火湾文化研究所 青野友哉 函

館市教育委員会 野村祐一 五所川原市教育委

員会 榎原滋高 札幌市 大沼忠春

引用参考文献

朝倉氏遺跡資料館 1983「泉道鯖江・美山線改良
工事に伴う発掘調査報告書」

北海道庁 1916「北海道史」

上田秀夫 1982「14～16世紀の青磁碗の分類につ
いて」貿易陶磁研究第2号

大橋康二 2000「I 九州陶磁概論」【九州陶磁
の編年】九州近世陶磁学会

小野正敏 1982「15、16世紀の染付碗、皿の分類
とその年代」貿易陶磁研究第2号

永井久美男 1998「近世の出土銭Ⅱ—分類図版編
—」兵庫埋蔵銭調査会

永井久美男 2002「新版 中世出土銭の分類図版」
兵庫埋蔵銭調査会

藤澤良祐 2002「瀬戸・美濃大窯編年の再検討」
【研究紀要 第10輯】
(財)瀬戸市埋蔵文化財センター

松崎岩穂 1956「上ノ国村史」上ノ国町教育委
員会

森田 勉 1982「14～16世紀の白磁の型式分類と
編年」貿易陶磁研究第2号

吉岡康暢 1994「中世須恵器の研究」吉川弘文館

本文目次

序／例言／引用参考文献

本文目次／挿図目次／表目次／写真図版

上ノ国市街地遺跡（山本吉春氏宅地点）	2
Ⅰ 調査の概要	2
1. 調査にいたる経緯	2
2. 調査方法	2
3. 調査経過	2
4. 基本層序	2
Ⅱ 遺構確認調査	3
1. 検出遺構	3
2. 出土遺物	5
史跡上之国花沢館跡	18
Ⅰ 調査の概要	18
1. 調査にいたる経緯	18
2. 調査方法	18
3. 調査経過	18
4. 基本層序	18
Ⅱ 遺構確認調査	21
1. 検出遺構	21
2. 出土遺物	32
小 括	33
1. 上ノ国市街地遺跡(山本吉春氏宅地点)	33
2. 史跡上之国花沢館跡	33
まとめ	34

報告書抄録

挿図目次

第1図 遺跡位置図	1
第2図 山本吉春氏宅 調査区位置図	1
第3図 遺構配置図他	4
第4図 出土遺物分布図1	9
第5図 出土遺物分布図2	10
第6図 柱列想定図	11
第7図 出土遺物1（土器）	12
第8図 出土遺物2（土器）	13
第9図 出土遺物3（土器）	14
第10図 出土遺物4（陶磁器・かわらけ）	15
第11図 出土遺物5（陶磁器・須恵器）	16
第12図 出土遺物6（陶磁器・銅製品）	17
第13図 遺構配置図	19
第14図 第1調査区平面図他	23
第15図 第2調査区平面図他	24
第16図 第3調査区平面図他	25
第17図 第4調査区平面図他	27
第18図 出土遺物7（陶磁器）	28
第19図 出土遺物8（陶磁器）	29
第20図 出土遺物9（陶磁器・銅製品）	30
第21図 出土遺物10（鉄製品）	31

表目次

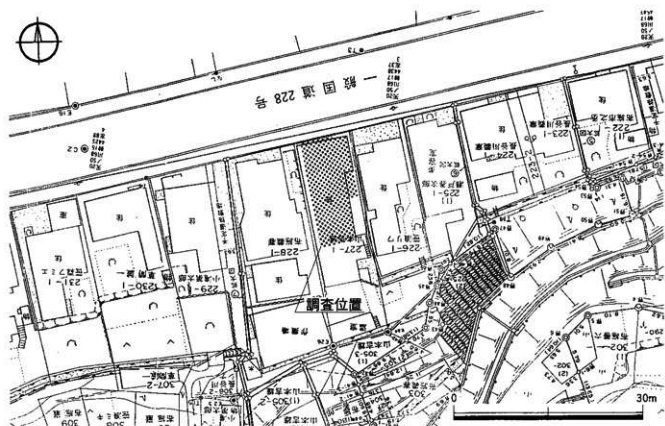
表1	東西北壁セクション (SPA~SPA')	5
表2	南北西壁セクション (SPB~SPB')	5
表3	山本宅出土遺物集計表 (土器)	6
表4	山本宅出土遺物集計表 (その他)	6
表5	山本宅出土遺物集計表 (陶磁器・かわらけ)	7
表6	山本宅 出土遺物観察表	7
表7	第1調査区 南北西壁セクション (SPA~SPA')	23
表8	第2調査区 南北東壁セクション (SPA~SPA')	24
表9	第2調査区 南北西壁セクション (SPB~SPB')	24
表10	第3調査区 南北東壁セクション (SPA~SPA')	25
表11	第3調査区 南北西壁セクション (SPB~SPB')	25
表12	第4調査区 南北北壁セクション (SPA~SPA')	31
表13	第4調査区 土壌1 (SPB~SPB')	31
表14	第4調査区 土壌2 (SPC~SPC')	31
表15	花沢館跡 出土遺物観察表	32
表16	花沢館跡 出土遺物集計表	33

写真図版

PL. 1	上ノ国市街地遺跡 遺構検出状況・出土遺物
PL. 2	上之国花沢館跡 遺構検出状況・出土遺物
PL. 3	上ノ国市街地遺跡 遺構検出状況
PL. 4	上ノ国市街地遺跡 (1~9)・ 上之国花沢館跡 (10~15) 遺構検出状況
PL. 5	上之国花沢館跡 遺構検出状況
PL. 6	上之国花沢館跡 遺構検出状況
PL. 7	上ノ国市街地遺跡 出土遺物 (縄文・絞縄文土器)
PL. 8	上ノ国市街地遺跡 出土遺物 (椽文土器・陶磁器)
PL. 9	上ノ国市街地遺跡 出土遺物 (陶磁器・かわらけ)
PL. 10	上ノ国市街地遺跡 出土遺物 (陶磁器・鉄製品・銅製品・骨角器・ 須恵器)
PL. 11	上之国花沢館跡 出土遺物 (陶磁器・鉄製品・銅銭・自然遺物・ 石製品)



第1図 遺跡位置図



第2図 山本吉春氏宅 調査区位置図

上ノ国市街地遺跡（山本吉春氏宅地点）

I 調査の概要

1. 調査にいたる経緯

上ノ国市街地遺跡は、天ノ川河口左岸の標高約5mの海浜に立地し、南西には史跡上之國勝山館跡を擁する丘陵地帯が広がる。

過年度には、住宅の建替え等による発掘調査が行なわれ、縄文～明治時代に至る遺構・遺物等が確認されている。

特に平成11年に行われた、旧笹浪家住宅横の宮ノ沢右岸地点の発掘調査では、中世末～近世初頭の層からイクバスイや陶磁器などが出土し、勝山館跡だけでなく上ノ国市街地においても、アイヌと和人のあり方について注目される資料が発見されている。

今年度は、旧笹浪家住宅から国道沿いを東側約100mに位置する山本吉春氏宅の住宅建替えに伴う発掘調査を行なった。

2. 調査方法

グリッドは、4m方眼を調査区全体に設定し、東西方向をアルファベット、南北方向をアラビア数字で表記し、それらを組み合わせてB1、C2…と設定した。

遺物の取り上げは、I層（表土層）出土のものは、グリッドを4分割（2m×2mの小グリッドを設定）して取り上げた。II層以下のものについては、地点と標高値を記録し、層位ごとに取り上げた。

3. 調査経過

6月15日(水)

調査区の設定とI～II層の掘削を行なう。

6月16日(木)

1640年降下のK o - d（駒ヶ岳d）火山灰上面で遺構検出を行う。柱穴等が確認されたが、近現代の攪乱によりその詳細は捉えられなかった。

6月17日(月)

III層において15世紀中頃～17世紀初頭の陶磁器が出土する。

6月28日(火)

III層上面において遺構検出を行なう。柱穴

等が多数確認された。

7月1日(金)

K o - d火山灰下で溝1を検出した。

7月11日(月)

930年代降下のB - T m（白頭山-苦小牧）火山灰上のIV a層から内耳土鍋が出土する。

7月13日(水)

B - T m火山灰下のV a層から縄文土器（後北C₂・D式）が出土する。

7月15日(金)

VI層面（無遺物層）まで掘り下げ、全景写真を撮影して発掘調査を終了した。

4. 基本層序

本調査区で確認された基本的な層序は以下のとおりである。

I層：近現代に相当する堆積層である。

II層：近世に相当する堆積層である。下部には1640年降灰のK o - d（駒ヶ岳d）火山灰の層を含む。

III層：中世～近世初頭に相当する堆積層で、2層に細分される。

III a層：黒褐色シルト層である。

III b層：明褐色他の粘土層である。

IV層：撥文時代に相当する堆積層で、2層に細分される。

IV a層：黒色の腐植土層で、B - T m上層に堆積する。

IV b層：B - T m火山灰層である。

V層：縄文時代に相当する堆積層で、2層に細分される。

V a層：暗褐色の砂質土層である。

V b層：灰白色の粘土層である。

VI層：縄文時代後期～晩期に相当する堆積層で、2層に細分される。

VI a層：褐灰色の砂質土層で礫を多く含む。

VI b層：褐灰色の砂質土層である。

VII層：褐灰色の砂層で、この層から遺物は出土しなかった。

II 遺構確認調査

1. 検出遺構

本調査では、Ⅱ層及びⅢ層面において溝・柱穴等の遺構を検出したが、Ⅳ～Ⅵ層面では遺構を検出できなかった。

また、Ⅲ層までは住宅の基礎等による現代の擾乱を受けており、遺構の掘り込み面が確認できないものも多数存在した。

なお、土壌1～3・井戸は近現代の遺構のため、ここでの記述は割愛した。

溝1 (第3図、P L 3-11・12)

〔位置〕B1・C1グリッドに位置する。

〔形態・規模〕東から西方向へ直線的に伸び、長さは残存値で400cm、幅約80cm、深さ約40cmを測る。溝1南側に約10cmの段が存在し、溝の造り替えを想定したが、平面プラン・土層堆積からそれを確認できなかった。

〔堆積土〕黒褐色シルトの自然堆積を呈し、5層に分層される(SPA～SPA)。K o - d火山灰より下層に位置する。

〔新旧関係〕切り合い関係からP29・30・41・78より古い。

〔出土遺物〕青磁碗1点、白磁皿(D群)1点、瀬戸・美濃灰軸皿(大窯第1～2段階)1点、瀬戸・美濃摺鉢(大窯第4段階)1点、染付碗?1点、漆碗1点が出土している。

灰・炭化物範囲(第3図、P L 3-13)

〔位置〕B4グリッドに位置する。

〔形態・規模〕長軸約100cm、短軸約70cm、厚さ3～5cmの不整形円形を呈する。

〔堆積土〕Ⅲb層直上に堆積し、灰や炭化物を含む。灰・炭化物除去後の地表面に被熱を受けた形跡がなく、別の場所から廃棄されたものと想定される。

〔新旧関係〕切り合い関係からP52より古い。

〔出土遺物〕青磁碗(龍泉窯系碗B2類)1点、白磁丸皿平高台(D群)6点、古瀬戸卸目付大皿(後Ⅳ古段階)1点が出土している。

柱列(第6図)

柱穴の切り合い関係や配置から柱列1～5を想定した。

柱列1

〔柱列〕P54・P14・P19とそれに直交するP49・P22・P40とP26・P21・P29を想定した。

〔柱間寸法〕P54～P19は、柱間5.4尺、6.6尺を測る。P54～P40・P19～P29は、柱間6.4尺、6.4尺、5.8尺を測る。

〔新旧関係〕切り合い関係からP21・P49が柱列2のP43・P8より古い。

柱列2

〔柱列〕P1・P59・P17とそれに直交するP2・P8とP11・P18・P46・P43を想定した。

〔柱間寸法〕P1～P17は、柱間6.3尺、6.3尺を測る。P1～P8は、柱間6.3尺、6.3尺を測る。P11～P43は、柱間6.3尺、6.3尺、6.3尺を測る。

〔新旧関係〕切り合い関係からP43・P8が柱列1のP21・P49より新しい。

柱列3

〔柱列〕P6・P13とそれに直交するP57・P28を想定した。

〔新旧関係〕P57は、K o - d火山灰層を壊して構築されるため、K o - d火山灰降下後の柱穴である。

柱列4

〔柱列〕P31・P27・P44を想定した。

〔柱間寸法〕P31～P44は、柱間7.1尺、7.1尺を測る。

〔新旧関係〕切り合い関係からP27が柱列5のP7より古い。

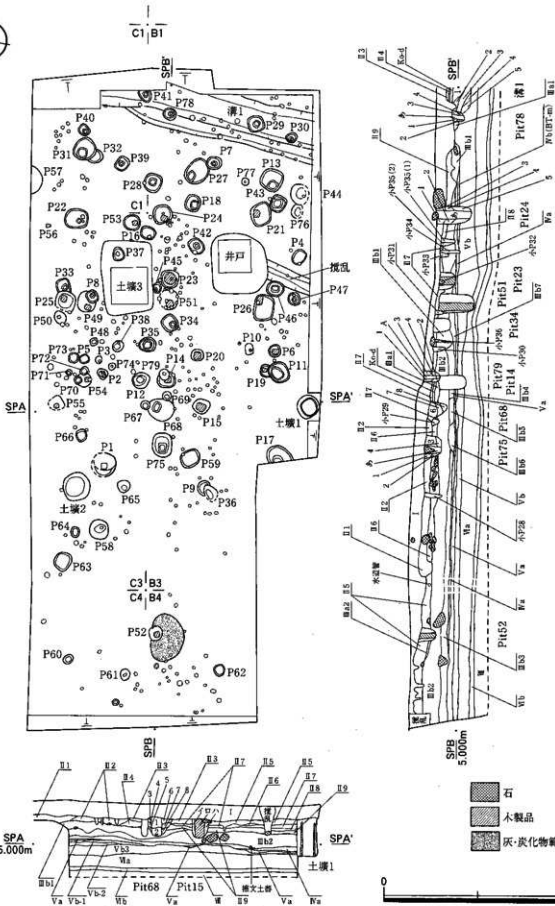
〔出土遺物〕なし

柱列5

〔柱列〕P61・P65・P38・P37・P39に直交するP62とP7を想定した。

〔柱間寸法〕P61～P39は、柱間13.2尺、9.9尺、6.6尺、6.6尺、P61～P62は、柱間6.6尺を測る。P39～P7は、柱間6.6尺を測る。

〔新旧関係〕切り合い関係からP7が柱列4のP27より新しい。また、P37が土壌3より新しい。



第3図 遺構配置図他

表1 東西北盤セクション (SPA~SPA')

	I	10YR3/3	暗褐色	干砂色・薄・ローム プロック少量	ややハード	灰少量
	II	10YR2/3	黒褐色	土砂色やや多量、炭 土粒少量	ややハード	
	III	10YR2/2	黒褐色	Ko-d粒少量、焼土 粒少量	ややソフト	灰少量
	IV	10YR3/2	黒褐色		シルト ややハード	
	V	10YR2/2	黒褐色	赤褐色粒土 焼土 赤褐色粒土 焼土 55 ~10cm 大角礫中量	シルト ややハード	炭粒中量
	VI	10YR2/2	黒褐色	Ko-dプロック (5cm 大) x1	シルト ややハード	
	VII	10YR2/2	黒褐色		シルト ややソフト	
	VIII	10YR2/3	暗褐色	明褐色粒少量	シルト ややソフト	
	IX	2.5YR5/6	明褐色	明褐色粒少量	シルト ややハード	
	X	2.5YR5/6	明褐色	明褐色粒少量	粘土 ややハード	
	XI	5YR2/3	黒褐色		シルト ソフト	本質多量
	XII	5YR4/3	にぶい黄 褐色	砂質土	砂質土 ややソフト	本質少量
	XIII	7.5YR8/1	灰白色		粘土 ソフト	
	XIV	7.5YR4/6	暗褐色	ローム粒少量	シルト ソフト	
	XV	10YR7/1	灰白色		粘土 ややハード	
	XVI	10YR6/1	暗褐色	焼土量	砂質土 ソフト	
	XVII	10YR4/1	暗褐色	砂質土 ややソフト	砂質土 ややソフト	炭粒少量
	XVIII	10YR4/1	暗褐色	砂質土	砂質土	
Pt15	イ	10YR3/2	黒褐色	砂質・焼土粒・砂少量	ややソフト	灰少量
	ロ	10YR3/3	暗褐色	砂質・焼土粒・砂少量	ややソフト	
	ハ	10YR3/2	暗褐色	砂質・焼土粒・ロー ム粒少量	ハード	
Pt16	1	10YR3/2	暗褐色		シルト ややハード	炭化プロ ック少量
	2	10YR3/4	暗褐色	Ko-dプロック微量	シルト ややソフト	
	3	10YR2/3	暗褐色	焼土粒少量、火山灰 多量	シルト ややソフト	灰少量
	4	10YR2/3	暗褐色	焼土粒・砂粒・焼土 粒少量	シルト ややハード	灰少量
	5	10YR3/2	暗褐色	Ko-d多量	シルト	灰少量
	6	10YR	金剛色			
	7	10YR	砂質少量	焼土粒・ 砂少量		
	8	10YR2/2	暗褐色			

表2 南西北盤セクション (SPB~SPB')

	I	10YR3/3	暗褐色	玉砂利・薄・ローム プロック少量	ハード	
	II	10YR3/3	暗褐色	径5~20cm大角礫多量	シルト ややハード	
	III	10YR3/3	暗褐色	径5~10cm大角礫中量	シルト ややソフト	
	IV	5YR4/4	赤褐色	径1~3cm大角礫中量	シルト ややハード	
	V	10YR2/2	暗褐色		シルト ソフト	
	VI	10YR2/2	暗褐色	赤褐色粒土 焼土 赤褐色粒土 焼土 55 ~10cm大角礫中量	シルト ややハード	炭粒中量
	VII	10YR2/2	暗褐色	Ko-dプロック (5cm)x1	シルト ややハード	

	II8	10YR2/2	暗褐色	明褐色粒少量	シルト ややソフト	
	II9	10YR2/1	暗褐色	明褐色粒少量	シルト ややソフト	
	III6	10YR2/2	暗褐色	ローム粒多量	シルト ややハード	
	IIIb	2.5YR5/6	明褐色		粘土 ややハード	
	IIIc	5YR3/6	明赤褐色	径1~3cm大角礫	粘土 ややハード	
	IIId	5YR3/6	明赤褐色	焼土量	粘土 ややハード	
	IIIe	2.5YR5/6	明赤褐色		粘土 ややソフト	
	IIIf	2.5YR5/6	明赤褐色		粘土 ややハード	
	IIIg	2.5YR4/6	赤褐色	粗砂少量	粘土 ややハード	
	IIIh	10YR4/1	暗褐色		粘土 ややソフト	炭粒多量
	IIIi	10YR5/6	黄褐色	粗砂中量	粘土 ややハード	
	IIIj	5YR2/3	黒褐色		シルト ソフト	本質多量
	IIIk	2.5YR7/2	黄褐色	B-Tm主群	シルト	
	Va	5YR4/3	にぶい黄 褐色		砂質土 ややソフト	本質少量
	Vb	10YR7/1	灰白色		粘土 ややソフト	
	Vc	10YR6/1	暗褐色	焼土量	砂質土 ややソフト	
	Vd	10YR4/1	暗褐色		砂質土 ややソフト	炭粒少量
	VI	10YR4/1	暗褐色		砂質土	
Pt24	1	10YR3/2	暗褐色	明褐色粒少量	シルト ややソフト	炭粒少量
	2	10YR3/2	暗褐色	明褐色粒少量	シルト ややハード	
	3	10YR3/2	暗褐色	明褐色粒少量	粘土 ややハード	炭粒少量
	4	10YR2/3	暗褐色	明褐色粒少量	粘土 ややハード	
Pt25	あ	10YR3/2	暗褐色		シルト ややソフト	炭粒少量
	1	10YR3/3	暗褐色	径1~3cm大角礫少量	シルト ややハード	
	2	10YR2/3	暗褐色	径1~3cm大角礫少量	シルト ややソフト	
	3	10YR3/3	暗褐色	径1~3cm大角礫少量	シルト ややハード	
	4	10YR2/3	暗褐色	径1~3cm大角礫少量	シルト ややハード	
Pt26	あ	10YR2/1	黒色		シルト ソフト	
	1	10YR2/2	暗褐色		シルト ソフト	
	2	10YR2/3	暗褐色		シルト ソフト	
	3	10YR2/3	暗褐色		シルト ソフト	
	4	10YR2/3	暗褐色		シルト ソフト	
Pt27	A	10YR3/3	暗褐色	径3cm大角礫 Ko-dプロック (5cm)x1	シルト ハード	
	1	10YR3/3	暗褐色		シルト ややハード	
	2	10YR2/3	暗褐色	Ko-dプロック (5cm)x1	シルト ややハード	
	3	10YR3/3	暗褐色		シルト ややハード	
	4	10YR2/3	暗褐色		シルト ややハード	
Pt28	小Pt28	10YR2/3	暗褐色		シルト ややソフト	炭粒少量
	小Pt29	10YR3/3	暗褐色		シルト ややソフト	
	小Pt30	10YR2/2	暗褐色	ローム粒少量	シルト ややハード	
	小Pt31	10YR3/2	暗褐色	明褐色粒少量	シルト ややハード	
	小Pt32	10YR2/2	暗褐色	明褐色粒少量	シルト ややハード	
	小Pt33	10YR2/2	暗褐色	明褐色粒少量	シルト ややハード	
	小Pt34	10YR2/2	暗褐色	ロームプロック少量	シルト ややソフト	炭粒少量
	小Pt35	1 10YR2/2	暗褐色	明褐色粒少量	シルト ややソフト	
		2 10YR3/2	暗褐色	明褐色粒少量	シルト ややハード	
	小Pt36	10YR2/2	暗褐色		シルト ややソフト	炭粒少量
測1	1	10YR2/1	黒色	明褐色土粒少量	シルト ややソフト	
	2	10YR2/1	黒色		シルト ややソフト	
	3	10YR2/1	黒色	明褐色土粒少量	シルト ソフト	
	4	10YR1/1	黒色		シルト ややソフト	
	5	10YR1/1	黒色		シルト ソフト	

2. 出土遺物 (7~12図、P L 1・7~10)

本調査では、破片数で3700点の遺物が出土している。実測・写真等の報告書掲載遺物に関しては、観察表を付した(表6)。

a. 土器 (7~9図、P L 7~8-5)

土器は、破片数で縄文土器612点、純縄文土器178点、撥文土器98点、不明1点の計889点出土している。

土器の分類は、原歌遺跡S地点の分類を参考にして行なった(上ノ国町教育委員会1998)。

IV群 a類: 縄文時代後期に相当する土器群。

主にVI b層から出土し、本調査では主体となる土器群でa~dの4類に細分される。

IV群 a類: 縄文時代後期初頭の土器群。

煉瓦台、天祐寺式などの余土式系の土器群を主体とする。

IV群 b類: 縄文時代後期前葉の土器群。

鳥崎式、大津式、十腰内I式、入江式系を主体とする。本調査では、入江式に相当する土器が出土している。

IV群 c類: 縄文時代後期中葉~後葉の土器群。

手箱式、ホッケマ式を主体とする。また、これらに先行する船泊上層式、ウサクマイC式なども含む。本調査では、ウサクマイC式、手箱式、ホッケマ式に相当する土器が出土している。

IV群 d類: 縄文時代後期後葉~末葉の土器群。

堂林式、三ツ谷式、御殿山式を主体とする。本調査では、堂林式に相当する土器が出土している。

V群: 縄文時代晩期の土器群。

主にVI a層から出土し、本調査では、大洞B~A式相当のものが出土している。また、外面胴部に糸痕を施す土器なども見られる。

Ⅴ 群：縄文時代の土器群。

本調査では、主にⅤ層から出土しているが、恵山式はⅤb層、後北式はⅤa層から出土している。

Ⅴ群a類：恵山式に相当する土器群。

本調査では、宇鉄Ⅱ式～田舎館Ⅰ群に併行するものと思われる。器種は台付鉢や深鉢が見られる。

Ⅴ群b類：後北式に相当する土器群。

本調査では、後北C₂-D式の深鉢が出土している。

Ⅵ 群：弥文時代の土器群。

本調査では、B-Tm火山灰上層のⅣa層から出土し、器種は壺・内耳土鍋が見られる。

b. 陶磁器 (10-12図-4、P L 8-6~10-12)

陶磁器は、破片数で2650点出土している。本項では紙幅の関係から唐津を除く肥前系陶磁器については、報告を行わなかった。

青磁 (10図-1~5・21・22、P L 8-6~12・32・33)

碗・皿・盤が出土している。碗は龍泉窯系碗B2類、D2類、B4類、E類が出土している。碗D2類の口縁部は、端反りのタイプのみで、玉縁状のものは見られない。皿は口縁部が玉縁状の端反皿や劃花文を施さない無文の稜花皿が出土している。盤は、内面胴部にソギが見られる。

白磁 (10図-25、P L 9-1)

白磁皿D群の丸皿で占められる。高台は平高台のものが見られ、釉調は陶器質を呈する。

染付 (10図-6・7・9・24、P L 8-13・14・19・35・36)

碗は蓮子碗C群、皿は多い順からE群、C群、B1群が出土している。碗・皿ともに漳州窯系と思われる粗製の一群が見られる。

瀬戸・美濃 (10図-10~15・27・28・32~34、11-11、12-2、P L 8-20~25、9-3・4・9~11、10-2・10)

鉄釉・錆釉・灰釉・鉛釉の釉調の製品が出土している。

鉄釉は、碗のみの出土で大窯第2後~4段階相当や連房期と推されるものが見られる。錆釉は、大窯第4段階相当の深鉢が見られる。

灰釉は、連房期に相当する碗や古瀬戸御日付大皿、大窯第1~2段階相当の端反皿や大窯第4段階相当の内丸皿などが出土している。鉛釉は、口縁部が屈曲する皿で外面胴部以下露胎を呈する。

珠洲 (11図-15、P L 10-6)

深鉢で構成され、胴部~底部破片の出土であるが、Ⅴ~Ⅵ期に相当するものと推測される。

越前 (11図-16、12-1、P L 10-7~9)

深鉢で構成され、Ⅴ群の製品が多く出土しⅣ群に相当するものも見られる。

志野 (10図-26・39・30、P L 9-2・5~7)

皿で構成され、丸皿・菊皿・鉄絵皿などが出土している。

唐津 (10図-17・23、11-1~6・10、12-3・4、P L 8-27・28・34、9-12~17、10-1・4・11・12)

碗・皿・盤などが出土している。碗は、目積みを行わない製品で占められる。皿は、多い順に砂目積みを行うもの、胎土目積みを行うもの、目積みを行わないものが出土する。

c. 鉄製品 (P L 10-21)

釘・鏝・刀子・鍋などが出土している。鍋は、吊耳の製品で構成される。

d. 銅製品 (12図-5~12、P L 10-13~18・20・22~27)

煙管・弁・銭などが出土している。銭は、明道元寶、寛永通寶(1・2期)が出土している。

e. 石製品

茶白・砥石が出土している。砥石は、仕上げ砥・中砥で構成される。

f. その他

石器、須臾器、かわらけ、骨角器、漆器などが出土している。

表3 山本宅出土遺物集計表(土器)

種類	分類	破片数	
縄文土器	Ⅴ群a類	1	
	Ⅴ群b類	5	
	Ⅴ群c類	436	
	Ⅴ群d類	6	
	Ⅴ群e類	35	
Ⅴ群f類	109		
小計	612	(68.9%)	
純縄文土器	Ⅴ群a類	97	
	Ⅴ群b類	66	
	Ⅴ群c類	15	
小計	178	(20.0%)	
弥文土器	Ⅵ群	98	(11.0%)
不明		1	(0.1%)
総計	889	(100%)	

表4 山本宅出土遺物集計表(その他)

種類	品名	破片数	種類	品名	破片数	種類	品名	破片数
鉄製品	鍋	2	石製品	砥石	8	石器	スライバー	2
	刀子	29		歯白	1		不明	16
	鏝	6	小計	9	不明	16		
	鍋	2	土製品	陶磁	6	自然遺物	貝	1
	ヤス?	1		芝	1		不明骨	8
鏝	1	不明	1	石	2			
不明	9	小計	8	小計	11			
小計	50	木製品	柱	7	骨角器	中骨	1	
銅製品	煙管		13	不明		2	不明滑動器	2
	釘	1	小計	9	須臾器	1		
	鏝	1	漆器	銅	13	現代ガラス(不明)	7	
	鏡	8		油紙片	4	総計	161	
	不明	5	小計	17				
小計	28							

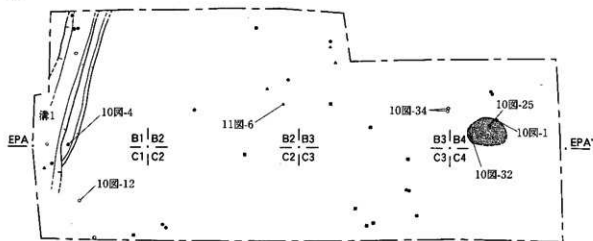
表5 山本宅出土遺物集計表 (陶磁器・かわらけ)

種類	品名	分類	破片数	種別	品名	分類	破片数	種別	品名	分類	破片数				
												計			
青磁	碗	龍泉窯系B2 2脚	9	龍泉窯系B2 2脚	龍泉窯系B2 2脚	碗	9	龍泉窯系B2 2脚	龍泉窯系B2 2脚	碗	9				
			1									龍泉窯系B2 4脚	1	龍泉窯系B2 4脚	1
			11									龍泉窯系D2 2脚	11	龍泉窯系D2 2脚	11
			9									龍泉窯系D2 4脚	9	龍泉窯系D2 4脚	9
			30									龍泉窯系不明	30	龍泉窯系不明	30
			1									龍泉窯系C脚	1	龍泉窯系C脚	1
			1									龍泉窯系D脚	1	龍泉窯系D脚	1
			1									龍泉窯系不明	1	龍泉窯系不明	1
			5									龍泉窯系不明	5	龍泉窯系不明	5
			50									小計	50	小計	50
白磁	皿	D脚	15	D脚	D脚	皿	15	D脚	D脚	皿	15				
			1									C脚	1	C脚	1
			16									津島窯系	16	津島窯系	16
			1									不明	1	不明	1
			1									B1 群	1	B1 群	1
			3									C群	3	C群	3
			3									C群	3	C群	3
			2									津島窯系	2	津島窯系	2
			2									不明	2	不明	2
			2									不明	2	不明	2
65	小計	65	小計	65											
磁器	瓶	B脚	2	B脚	B脚	瓶	2	B脚	B脚	瓶	2				
			2									大塚2後	2	大塚2後	2
			5									大塚4	5	大塚4	5
			1									不明	1	不明	1
			2									通房	2	通房	2
			4									小皿	4	小皿	4
			7									不明	7	不明	7
			13									通房	13	通房	13
			4									大塚1・2	4	大塚1・2	4
			11									内瓦蓋	11	内瓦蓋	11
5	香炉	5	香炉	5											
7	大塚4	7	大塚4	7											
3	不明	3	不明	3											
63	小計	63	小計	63											
志野	瓶	不明	15	不明	不明	瓶	15	不明	不明	瓶	15				
			2									不明	2	不明	2
			17									不明	17	不明	17
			63									小計	63	小計	63
			1825									肥前系陶磁器	1825	肥前系陶磁器	1825
			132									不明陶磁器	132	不明陶磁器	132
			1									中世土器	1	中世土器	1
			3660									小計	3660	小計	3660

表6 山本宅 出土遺物観察表

調査No	PLNo	グリット	遺構	層位	種類	数量	備考	整理No
796-1	PL7-1	B1-B2	井戸	Wb	縄文土器	漆鉢	笠形C脚 口径28.6×底径21.1×器高6.8cm 外面-口縁部、胴部LR斜行縄文横線付。内面-ミガキ	接合No314
796-2	PL7-2	C2		Wb	縄文土器	漆鉢	笠形C脚 口径23.0cm 底径18.0cm 外面-口縁部LR斜行縄文横線付。穿孔、胴部LR斜行縄文横線付。内面-ミガキ	接合No285
796-3	PL7-3	C2		Wb	縄文土器	漆鉢	笠形C脚 口径17.8cm 外面-口縁部、胴部LR斜行縄文横線付。内面-ミガキ	接合No285
796-4	PL7-4	C2		Wb	縄文土器	漆鉢	笠形C脚 外面-頸部沈線、胴部LR斜行縄文横線付。内面-ミガキ	接合No321
796-5	PL7-5	C4		Wb	縄文土器	漆鉢	笠形C脚 口径30.8cm 外面-口縁部LR斜行縄文横線付。穿孔、胴部LR斜行縄文横線付。内面-ミガキ	接合No271
796-6	PL7-6	C2		Wb	縄文土器	漆鉢	笠形C脚 口径17.0cm 外面-頸部沈線、胴部LR斜行縄文 内面-ミガキ	接合No315
896-1	PL7-7	B2	井戸	Wb	縄文土器	漆鉢	笠形C脚 外面-胴部「J」字状、入組文の縦文を強く。内面-胴部ミガキ	接合NoP75
896-2	PL7-8			Wb	縄文土器	漆鉢	B脚C脚 外面胴部-頸状T真による施文。内面-胴部ミガキ	非土-P21
896-3	PL7-9	C3		Wb	縄文土器	漆鉢	笠形C脚 外面-口縁部結付、沈線	C3V-P72
896-4	PL7-11	C2		Wb	縄文土器	漆鉢	笠形C脚 山形口縁 外面-口縁部沈線、胴部LR斜行縄文横線付。内面-ミガキ	接合No282
896-5	PL7-12	C1		Wb	縄文土器	漆鉢	笠形C脚 山形口縁 外面-胴部沈線、胴部LR斜行縄文 内面-ミガキ	接合No267
896-6	PL7-13	C1		Wb	縄文土器	漆鉢	笠形C脚 口縁部内面B底底状突起 外面-口縁部沈線	接合No291
896-7	PL7-10	B3		Wb	縄文土器	漆鉢	V群 外面-口縁部平行沈線、頸部結付、胴部平行沈線、T字文、LR斜行縄文横線付	B32V-P1
896-8	PL7-14	B1		Wb	縄文土器	漆鉢	V群 外面-沈線、結付	非土-P1
896-9	PL7-18	B4		Wb	縄文土器	漆鉢	V群 底径4.0cm 外面-底面彩色付塗物	接合No298
896-10	PL7-15	C2		Wb	縄文土器	漆鉢	笠形C脚 口径22.0cm 外周-沈線、LR斜行縄文横線付。内面-ミガキ	接合No283
896-11	PL7-16	B4		Wb	縄文土器	漆鉢	V群 口径17.5cm 1.胴部B形突起	接合No293
896-12	PL7-17	B4		Wb	縄文土器	漆鉢	V群 外面-胴部沈線	接合No254
896-13	PL7-19	C2		Wb	縄文土器	漆鉢	笠形C脚 口径28.0cm 外面-口縁部結付、沈線、胴部LR斜行縄文横線付。内面-ミガキ	接合No285
896-14	PL7-18	C3		Wb	縄文土器	漆鉢	V群 口径12.4cm 口縁部結付	接合No324
996-1	PL7-20	B2		Vb	縄文土器	付付鉢	V群C脚 壺山式 外面-胴部結付、沈線、縦文縄文 字状 口へ面輪1筋に付付か	接合No303
996-2	PL7-22	B2		Vb	縄文土器	付付鉢	V群C脚 壺山式 底径12.2cm 外面-沈線、肩口 中腹に口面輪1筋に付付か	接合No248
996-3	PL7-21	B1、B4		Vb	縄文土器	漆鉢	V群C脚 壺山式? 外面-胴部沈線、縦文縄文	接合No263
996-4	PL7-23	B3		Va	縄文土器	漆鉢	V群C脚 壺山式? D式	接合No266
996-5	PL8-1	C3		Ba	埴土器	甕	甕形 高さ(18.5)×底径5.5cm 外面-口縁部コナナ、胴部ヘラズリ、底面ヘラズリ 内面-胴部炭化物付着	接合No247
996-6	PL8-2	B2、B3		Ba	埴土器	甕	甕形 口径10.8×底径11.1×器高6.2cm 外面-口縁部コナナ、沈線、胴部ヘラズリ、底面ヘラズリ 内面-口縁部コナナ、胴部ヘラズリ	接合No246
996-7	PL8-3	B3		Ba	埴土器	甕	甕形 口径14.0cm 外面-口縁部沈線3筋、胴部ヘラズリ 内面-口縁部コナナ、胴部炭化物付着	B32V-P1
996-8	PL8-4	B1		Ba	埴土器	甕	甕形 口径12.4cm 外面 口縁部沈線、胴部ヘラズリ 内面-口縁部コナナ	B1 IV-P1
996-9	PL8-5	RB-R3		Ba	埴土器	甕	甕形 内径11.0cm 口径16.4cm 外面-口縁部コナナ、胴部ヘラズリ 内面-口縁部コナナ、胴部ヘラズリ	接合No243
1096-1	PL8-6	B4		Bb	青磁	碗	龍泉窯系B2脚 口径13.0 外面-胴部 外面-口縁部横線2筋、胴部炭化物付着	B4 皿-E28
1096-2	PL8-7	C2、C3		Bb	青磁	碗	龍泉窯系B2脚 口径11.8 外面-口縁部横線、胴部炭化物付着	接合No202
1096-3	PL8-8	C3		I	赤磁	碗	龍泉窯系D2脚 通反碗	C3 I-E265
1096-4	PL8-9	R1-C2		Ba	青磁	碗	龍泉窯系D2脚 通反碗 外面-胴部 (ラズリ?) 垂文付 内面-胴部横文	接合No65
1096-5	PL8-10	B1		O	青磁	碗	龍泉窯系B2脚 底径7.6cm 外面-胴部炭化物付着、高台裏面付 内面-見込横線	B1 皿-E261
	PL8-11	B4		O	青磁	碗	龍泉窯系D2脚 通反碗	B4 皿-E24
	PL8-12	B2	井戸	Bb	青磁	碗	龍泉窯系B2脚 外面-胴部通文、高台裏面付 内面-見込横線、印文?	B2 皿-P2
1096-6	PL8-13	B1		I	粉引	碗	津島窯系 底径4.0 内面-見込赤文	B1 I-E15
1096-7	PL8-14	B1		O	粉引	碗	C群 通文 底径4.8cm 外面 胴部アラバコ、胴部横線2筋、内面-見込横文	B1 皿-E23
1096-8	PL8-15	C1		O	肥前系系付	碗	II-2脚 口径10.3cm 外面-口縁部横線2筋、胴部横文	C1 皿-E12
	PL8-16	C2		O	肥前系系付	碗	II-2脚 外面-口縁部通文、胴部横文、胴部横線、内面-口縁部横線	C2 皿-E13
	PL8-17	C1		O	肥前系系付	碗	II-2脚 外面-口縁部通文、胴部横文、胴部横線、内面-口縁部横線	C1 皿-E10
	PL8-18	B2、C2		Bb	肥前系系付	碗	II-2脚 外面-口縁部横線2筋、胴部横文、胴部横線、内面-口縁部、見込横線	接合No78
1096-9	PL8-19	B1		溝I	甕土器	甕	外面-胴部「I」様 内面-見込横線2条	B1 皿通文-E26
1096-10	PL8-20	C2		J	鉄輪	甕	瓦目系甕 大塚2後 口径12.0×器高3.77cm 高外周刃付、磨輪	接合No249

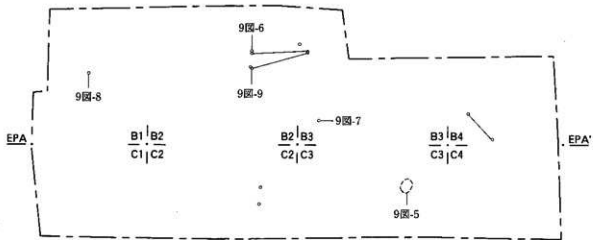
図面No	PLNo	グリッド	通稱	部位	種類	仕様	備考	整理No
1009-11	PL8-21	B1	II	鉄板	鋼	天日高杭 大鋼4 口径11.8cm		B1 II-E57
1009-12	PL8-22	C1	II	鉄板	鋼	天日高杭 大鋼4 口径11.8×高さ(3.6)cm 高台取付部-編組		接合No43
1009-13	PL8-23	B2	II	鉄板	鋼	天日高杭 大鋼4 1径11.8×高さ(3.6)cm		B2 II-E17
1009-14	PL8-24	B1	III	鉄板	鋼	端反壁 口径10.0×高さ(2.6)cm 外面-鋼板以下露出		B1 II-E47
1009-15	PL8-25	B1	II	鉄板	鋼	端反壁 口径13.3×高さ(3.3)cm		B1 II-E2
1009-16	PL8-26	B2	I	肥後系陶器	香伊	L径12.0×底径6.3×器高8.3cm 外周-口縁部、胴部隠蔽 縁部以下露出 内周-見込		接合No17
	PL8-27	B2	II	漆塗	鋼	日隠 外面-射部以下露出 内面-鉄板		接合No27
1009-17	PL8-28	B1	I	漆塗	鋼	日隠 口径10.2×底径5.0×器高6.2cm 外周-高台露出部、スチ行着 2次被熱		接合No23
1009-18	PL8-29	B3	II	肥後系陶器	陶	高台取付部 1径11.0×底径5.1×器高7.3cm		接合No7
1009-19	PL8-30	B1、B2	I	肥後系青磁	陶	口径11.2×底径5.0×器高7.0cm 外面-高台露出部		接合No7
1009-20	PL8-31	B3、C3	II	肥後系青磁	陶	口径21.0cm		接合No178
1009-21	PL8-32		III	青磁	陶	桜花煎 2次被熱		接合-E3
1009-22	PL8-33	B3	II	漆塗	鋼	内面-鋼板被熱連弁		接合No205
1009-23	PL8-34	B1	I	漆塗	鋼	内面-射部ソデ		B1 II-E78
1009-24	PL8-35	C1	I	漆塗	鋼	端反壁 B1径 底径6.7×器高(1.95)cm 外周-開口部北東部、壁部隠蔽3条、内周-見込隠蔽2条、松?		C1 I-E24
	PL8-36	B3、C3、C4	I	漆塗	鋼	B径 外周-口縁部隠蔽2条、胴部芝草、縁部?、壁部隠蔽2条、内面-口縁部隠蔽、胴部、見込部牡丹		接合No6
	PL8-37	B3、B4、C3	II	肥後系赤灰	瓦	大瓦 日一調 L径20.9×器高4.3×底径7.0cm 外周-壁部略露出弁、内周-見込隠蔽2条、縁部赤文、草文		接合No1
1009-25	PL9-1	B4	III	白磁	瓦	大瓦 D部 平高台 口径9.0×底径8.2×器高2.6cm		接合No46
1009-26	PL9-2	C3	I	志野	瓦	大瓦 L径11.0×底径6.0×器高2.1cm		接合No137
1009-27	PL9-3	B2	II	赤陶	瓦	内丸瓦 7大鋼4 口径10.6×器高(1.7)cm		B2 II-E177
1009-28	PL9-4	B2	II	赤陶	瓦	内丸瓦 大鋼4 口径10.0×底径5.3×器高(1.9)cm 内面-見込露出		接合No61
1009-29	PL9-5	B1	I	志野	瓦	大瓦 口径11.7×底径6.8×器高2.4cm		接合No72
1009-30	PL9-6	B3	I	志野	瓦	鉄板瓦 口径12.9×器高(2.15)cm 内面-口縁部隠蔽、見込隠蔽2条		B3 II-E328
	PL9-7	B1	II	志野	瓦	鉄板瓦		B1 II-E287
1009-31	PL9-8	B1	II	白磁	瓦	かわらけ てづくね 口径12.0×底径6.0×器高1.95cm		B1 II-E1
1009-32	PL9-9	B4、C4	B3	赤陶	瓦	加賀付大瓦 古瀬戸後立古焼 口径34.0×底径16.0×器高8.2cm		接合No23
1009-33	PL9-10	B1	III	赤陶	瓦	加賀付大瓦? 古瀬戸後立古焼		B3 II-E275
1009-34	PL9-11	B3、B4	III	赤陶	瓦	加賀付大瓦? 古瀬戸後立古焼		接合No22
1109-1	PL9-12	B3	II	赤陶	瓦	日隠 底径4.6 外周-射部以下露出		B3 II-E259
1109-2	PL9-13	C2	II	赤陶	瓦	日隠 L径11.8×底径4.0×器高3.4cm 外周-射部以下露出、高台取付部露出 内面-見込土目		接合No14
1109-3	PL9-14	C3	II	漆塗	瓦	日隠 色調-内外面ナリベ色		C3 II-E27
1109-4	PL9-15	B1、B2	II	漆塗	瓦	日隠 口径13.4×底径4.4×器高3.7~4.1cm 外周-射部以下露出 内面-見込土目露出		接合No16
1109-5	PL9-16	B1、C1、C2	II	漆塗	瓦	日隠 外面-射部以下露出 内面-見込赤目露出 3次被熱		接合No24
1109-5	PL9-17	B2、C2	小 P627	II	漆塗	日隠 口径24.0×底径8.4×器高7.1cm 内面-見込赤目露出		接合No28
1109-6	PL9-18	B2、B3、C2、C3	III	肥後系陶器	瓦	大瓦 草部 外周-胴部以下露出 内面-白化土による短毛目露出、鉄板、鋼板隠蔽		接合No130
1109-7	PL9-19	B2	II	肥後系青磁	瓦	17世紀中頃 口径24.0×器高3.4cm 外面-高台露出 内面-見込銅板赤文		接合No66
1109-8	PL9-20	B2、B3、C3	II	肥後系陶器	瓦	日隠 底径8.6cm 外周-透引輪、高台露出部 内周-胴部、見込部の日輪刺子		接合No71
1109-9	PL9-21	B3	II	肥後系青磁	瓦	口径9.4×底径4.9×器高1.9cm 輪部-下着露出部 内周-見込赤?、雲紋の裏文様		接合No120
1109-10	PL10-1	B2	II	漆塗	片口	日隠 口径20.4cm		接合No29
1109-11	PL10-2	B2	II	赤陶	香伊	口径11.0×底径6.0×器高(5.3)cm 外周-胴部以下露出 2次被熱		接合No31
1109-12	PL10-3	C1	II	赤陶	瓦	産地不明 内面-胴部同心円状の明き目 色調-粘土灰白色		接合No117
1109-13	PL10-4	C1	II	肥後系陶器	瓦	内外面-白磁色 色調-粘土灰白色		C1 II-E43
1109-14	PL10-5	C3	II	須石塗	瓦	外周-胴部-射部明き目 粘土-暗赤褐色 北所川原産		C3 II-E16
1109-15	PL10-6	B4	II	漆塗	瓦	内面-見込土目		B4 II-E8
1109-16	PL10-7	B3、C3	II	漆塗	瓦	V部 口径30.0cm 射部10条		接合No119
	PL10-8	C3	I	漆塗	瓦	V部 射部8条		C3 II-E1
1209-1	PL10-9	A2、C3	III	赤陶	瓦	V部 口径29.8×底径12.6×器高10.8cm		接合No114
1209-2	PL10-10	B2	III	漆塗	瓦	L径30.0cm 反射計測りに射部9条 色調-内外面赤褐色、粘土灰白色		B2 II-E11
1209-3	PL10-11	C1	III	漆塗	瓦	日隠 口径30.0cm 内・外周-口縁部露出		接合No19
1209-4	PL10-12	B2、C3	III	漆塗	瓦	日隠 口径29.0cm 内・外周-口縁部露出 射部14条		接合No169
1209-5	PL10-13	B2	II	銅製品	佛管	佛管 長さ(8.2)×幅0.8×厚さ1.0cm 重量10.0g 1209-7と同一体		B2 II-Ca8
1209-6	PL10-14	C3	I	銅製品	佛管	佛管 長さ(8.2)×幅0.5×厚さ0.8cm 重量5.5g		C3 I-Ca2
1209-7	PL10-15	C3	I	銅製品	佛管	佛管 長さ(7.7)×幅0.5×厚さ0.5cm 重量3.1g 1209-5と同一 佛体		C3 I-Ca2
	PL10-16	C1	II	銅製品	佛管	長さ(5.6)×幅(6.0)×厚さ2.5g		C1 II-Ca1
	PL10-17	B2	II	銅製品	佛管	長さ(4.7)×幅0.6×厚さ0.6cm 重量1.2g		B2 II-Ca3
	PL10-18	B1	II	銅製品	佛管	長さ(5.0)×幅(1.1)×厚さ3.7g		B1 II-Ca1
	PL10-19	C3	II	骨内器	中判?	長さ(3.5)×幅0.8×厚さ0.7cm 重量1.6g		C3 II-N1
1209-8	PL10-20	B1	III	銅製品	片	長さ9.3×幅0.9×厚さ0.1cm 重量4.1g		B1 II-Ca1
	PL10-21	B2	II	漆塗	瓦	長さ(10.7)×幅2.0×厚さ0.9cm 重量15.1g		B2 II-M7
1209-9	PL10-22	B2	III	漆塗	瓦	明治元寶(裏面) 外径2.20×内径1.09×厚さ0.18cm 重量2.6g		B2 II-E17
1209-10	PL10-23	B2	II	銅製品	鏡	寛永通寶 古寛永1期 外径2.46×内径1.96×厚さ0.18cm 重量3.0g		B2 II-E21
1209-11	PL10-24	C3	II	銅製品	鏡	寛永通寶 古寛永1期 外径2.45×内径1.88×厚さ0.19cm 重量2.4g		C3 II-Z1
	PL10-25	C2	I	銅製品	鏡	寛永通寶 古寛永1期 外径2.56×内径1.91×厚さ0.22cm 重量3.4g		C2 I-Z1
	PL10-26	B2	II	銅製品	鏡	寛永通寶 古寛永1期 外径2.50×内径1.98×厚さ0.20cm 重量3.0g		B2 II-Z2
1209-12	PL10-27	C2	II	銅製品	鏡	寛永通寶(背文) 新寛永1期 外径2.61×内径2.06×厚さ0.20cm 重量2.6g		C2 II-Z1



EPA
5.000m

III層 出土遺物分布図

- 青磁・白磁・染付
- 瀬戸・美濃
- 越南
- ▲ 唐津
- 肥前系陶磁器
- 灰・炭化物凝固



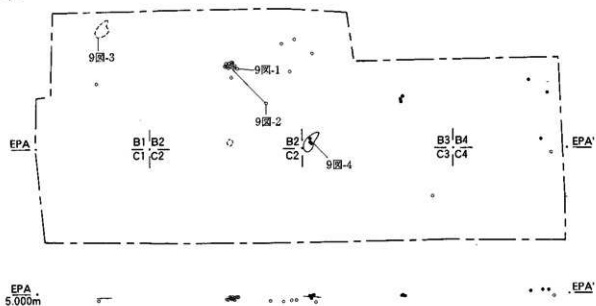
EPA
5.000m

IV層 (Va層) 出土遺物分布図

- 土器
- 土器一括範囲

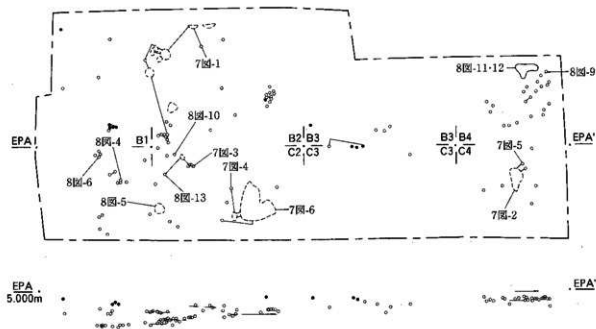


第4図 出土遺物分布図1



- 土器 (Va層) —— 土器一括範圍 (Va層)
- 土器 (Vb層) - - - 土器一括範圍 (Vb層)

V層 出土遺物分布圖

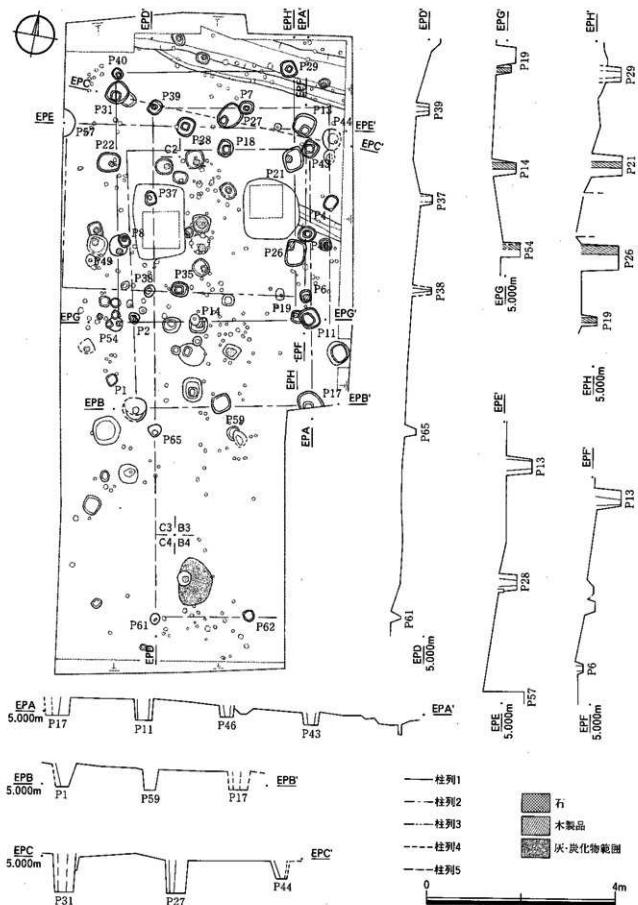


- 土器 (VI層) —— 土器一括範圍 (VI層)
- 土器 (VIb層) - - - 土器一括範圍 (VIb層)

VI層 出土遺物分布圖



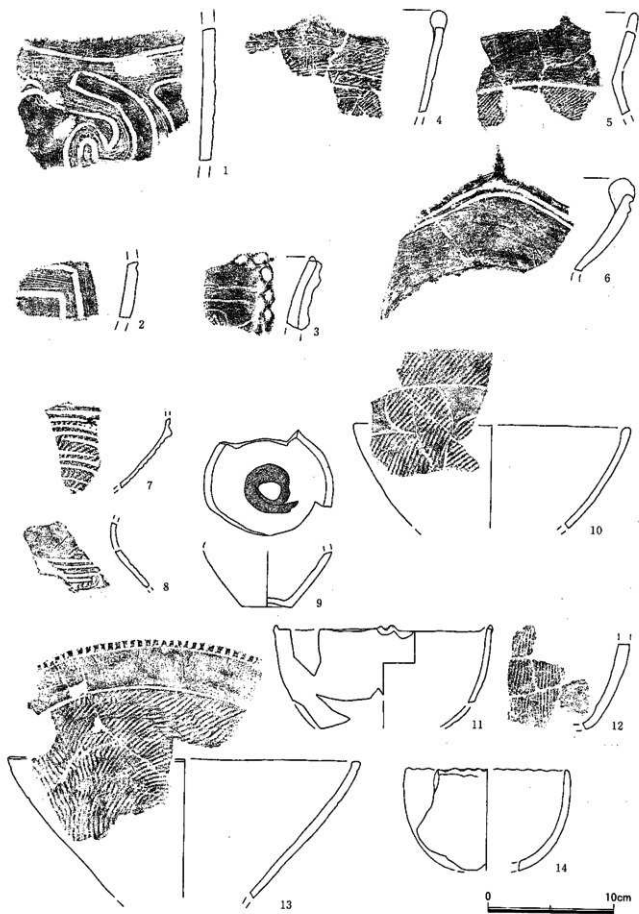
第5圖 出土遺物分布圖2



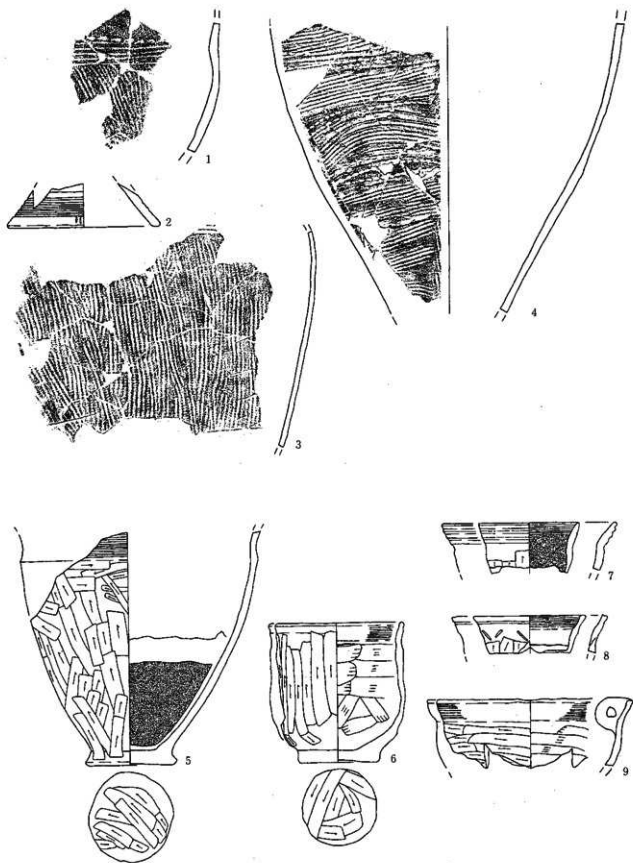
第6図 柱列想定図



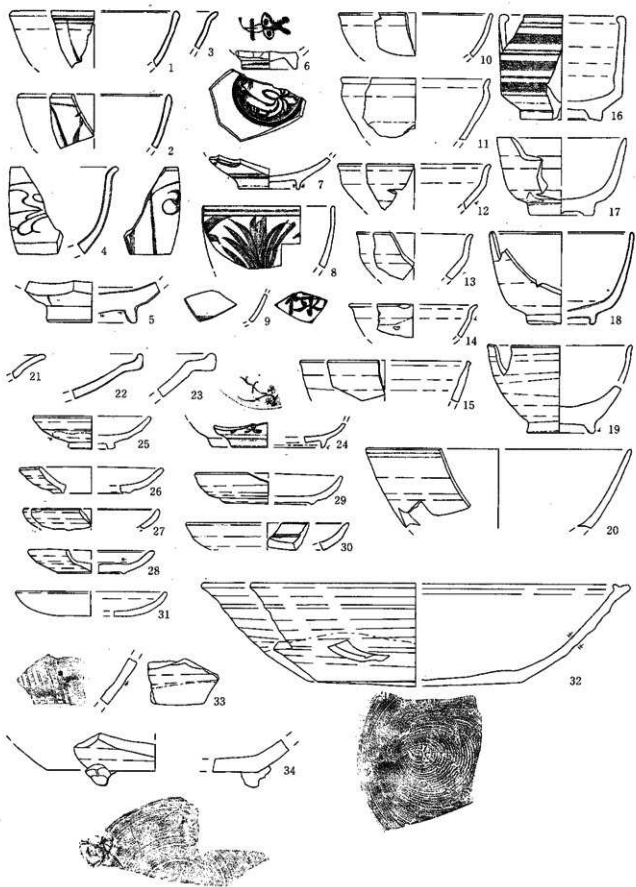
第7図 出土遺物1 (土器)



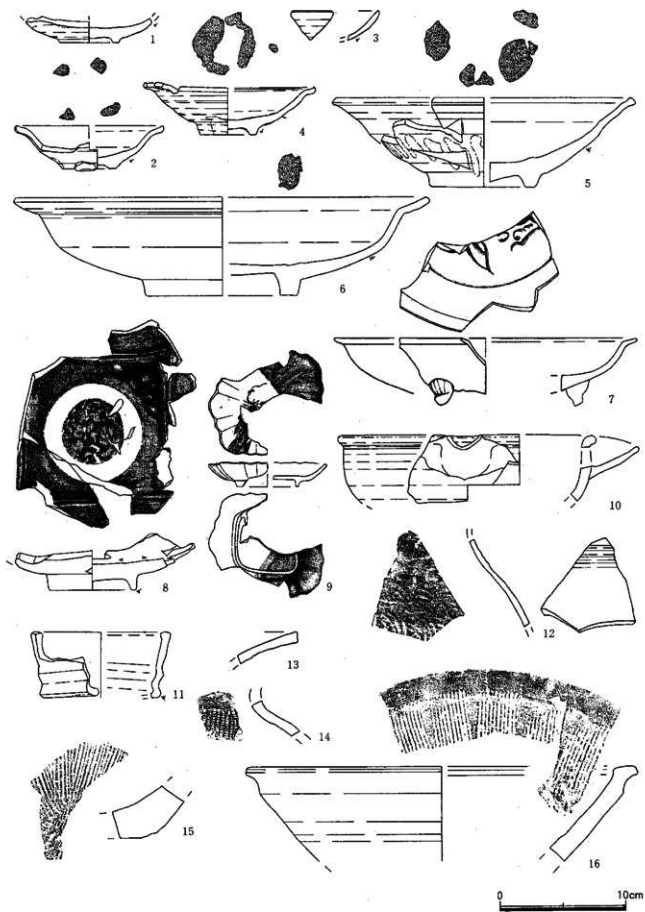
第8图 出土遺物2 (土器)



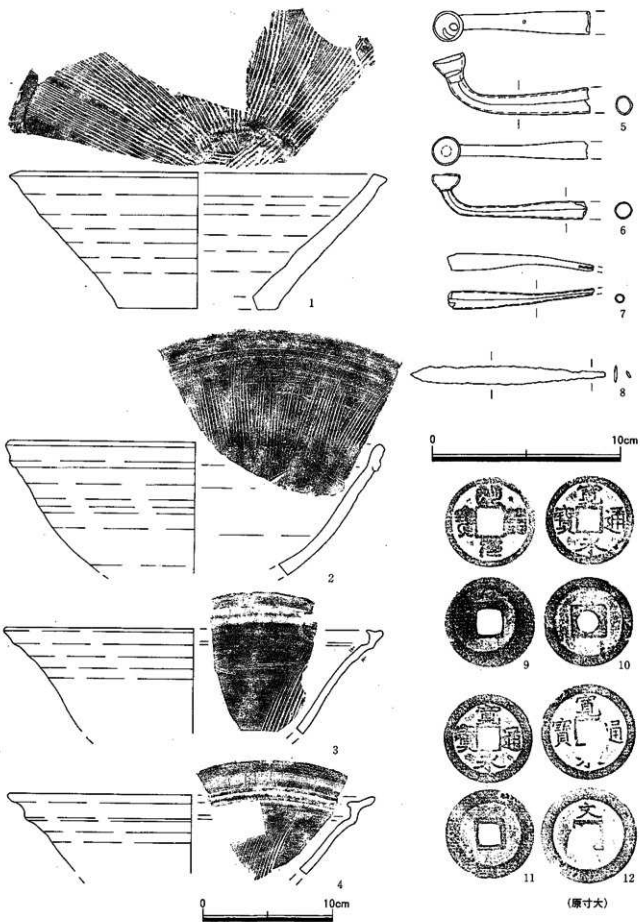
第9圖 出土遺物3 (土器)



第10図 出土遺物4 (陶磁器・かわらけ)



第11圖 出土遺物5 (陶磁器・須惠器)



第12図 出土遺物6 (陶磁器・銅製品)

史跡上之国花沢館跡

I 調査の概要

1. 調査にいたる経緯

花沢館跡は、天ノ川左岸に位置し、頂上部は標高約60mを測る。天ノ川の対岸には洲崎館跡が位置し、西側約1km先には、勝山館跡が位置している。

花沢館跡は昭和35年に道指定史跡、昭和52年には国指定史跡として登録されている。

昨年には史跡指定地内で初めて発掘調査が行なわれ、空壕跡や15世紀中頃の年代を示す陶磁器などが出土したが、明確な建物跡などの遺構を確認することができなかった。

そのため、今年度は建物跡などの遺構を確認する目的で正面の平坦面、舌状に張り出した平坦地を調査するとともに、昨年検出した空壕跡の続きを確認するため館後方にも調査区を設定した。

2. 調査方法

グリッドは、大グリッドを20m方眼で南北方向をアラビア数字、東西方向をアルファベットで設定し、それらを組み合わせて6 J、4 K…と表記した。

さらに、大グリッドを4m方眼で25分割して小グリッドを設定し、6 J21、4 K3…と表記した。

遺物の取り上げは、I層出土のものは小グリッドを4分割して取り上げ、II層以下のものについては地点と標高値を記録し、層位ごとに取り上げた。

3. 調査経過

7月25日(月)

発掘器材を現場まで搬入し、調査区と周辺の草刈作業を行う。

8月1日(月)

第1・2調査区で表土剥ぎ、及び遺構精査を行う。第2調査区では、溝1が検出される。調査区と周辺の簡易測量を行う。

8月8日(月)

第1調査区で溝2を検出する。第3調査区の表土剥ぎ、及び遺構精査を行う。第3調査区で溝3を検出する。

8月16日(火)

第4調査区の表土剥ぎ、及び遺構精査を行う。

第4調査区の黒色土範囲から、珠洲播鉢などが出土する。

8月22日(月)

第1調査区で横列跡を確認した。第4調査区で検出した溝状黒色土範囲の遺物出土状況を撮影する。

8月23日(火)

第1調査区のセクション図、完掘平面図を作成する。

第4調査区で空壕跡を検出した。

8月29日(月)

第4調査区の完掘平面図とセクション図を作成する。

9月1日(木)

現地見学会を行う。

9月16日(金)

調査区にナイロンを敷いて埋め戻しを行う。発掘器材を撤収し、発掘調査を終了した。

4. 基本層序

本調査区で確認された基本的な層序は以下のとおりである。

I層：近現代～現代に相当する堆積層で、3層に細分される。

I a層：現代の表土層である。

I b層：近現代の耕作土・盛土層である。

I c層：大正11年頃の表土層である。

II層：近世に相当する堆積層である。下部には1640年降灰のK o o r d (駒ヶ岳d)火山灰の層を含む。

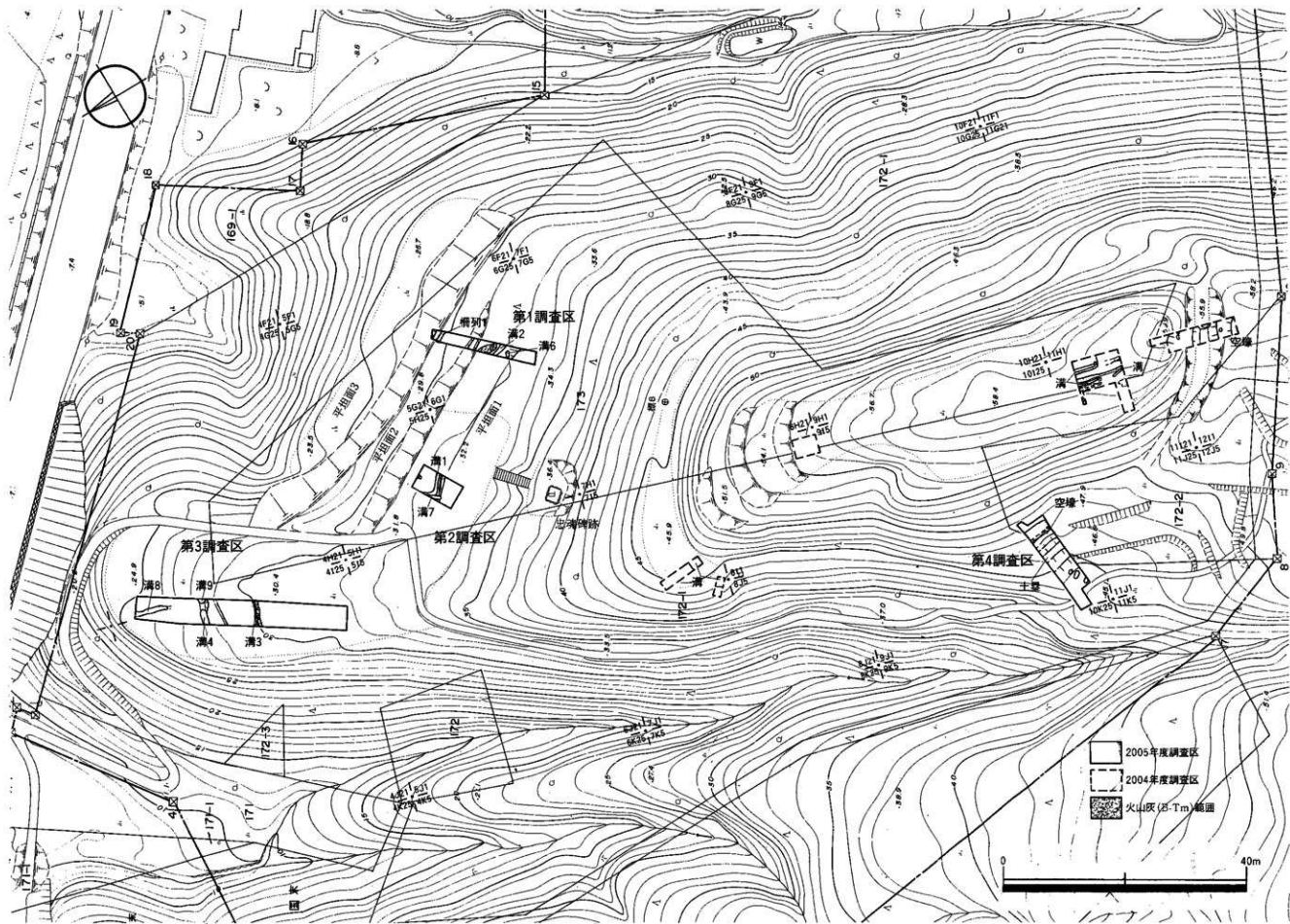
III層：中世後期(15～16世紀)に相当する整地層である。

IV層：縄文～撥文時代に相当する堆積層で、3層に細分される。

IV a層：黒色の腐植土層で、撥文期に相当する層である。

IV b層：IV a層の下層に堆積する10世紀中葉以降のB-T m(白頭山一苦小牧)火山灰である。

IV c層：IV b層の下層に堆積する黒色の腐植土層で縄文時代に相当する堆積層である。



第13図 遺構配置図

II 遺構確認調査

1. 検出遺構

第1調査区(第14図、PL2-1・2、4-11-5-1)

〔位置〕6Gグリッドに位置する。

〔堆積土〕忠魂碑建設当時(大正11年)に整地をした、厚さ約50cmの盛土(Ib層)を確認した。盛土はロームを多く含むため、地山を削平して現在見られる平坦地を造成したと思われる。

〔検出遺構〕溝列1、溝2、溝6を検出した。

〔出土遺物〕近現代の盛土から、石製品の茶臼1点が出土している。

溝列1(第14図、PL2-2)

〔位置〕6G8グリッドの平坦面2に位置する。

〔形態・規模〕南東から北西方向へ直線的に延び、長さは残存値で200cm、幅約30cm、深さ約33cmを測る。底面に直径約20cm、深さ10~20cmの杭穴(P1~4)を4基併う。

〔堆積土〕3層に分層される(SPA~SPA')。

〔新旧関係〕なし〔出土遺物〕なし

溝2(第14図、PL4-13)

〔位置〕6G17グリッドに位置する。溝2は位置や形態・規模・堆積土から、第2調査区で検出した溝1に繋がる可能性がある。

〔形態・規模〕南東から北西方向へ直線的に延び、長さは残存値で204cm、幅約44cm、深さ約30cmを測る。

〔堆積土〕自然堆積を呈し、覆土上にKordが層状に堆積し、2層に分層される(SPA~SPA')。

〔新旧関係〕なし〔出土遺物〕なし

溝6(第14図、PL4-13)

〔位置〕6G17グリッドに位置する。

〔形態・規模〕北西から南東方向へ延び、先端部で東へ曲がる。長さは残存値で100cm、幅約40、深さ約19cmを測る。

〔堆積土〕自然堆積を呈し、2層に分層される(SPA~SPA')。

〔新旧関係〕なし〔出土遺物〕なし

第2調査区(第15図、PL5-2~6)

〔位置〕5H・6Hグリッドに位置する。

〔堆積土〕第1調査区同様の盛土が約60cmの厚さで堆積しているのを確認した。

〔検出遺構〕溝1、溝7、焼土1を検出した。

〔出土遺物〕なし

溝1(第15図、PL5-5)

〔位置〕5H17・22・23グリッドの平坦面2に位置する。

〔形態・規模〕南東から北西方向へ延び、北東方向へほぼ直角に曲がる。長軸は残存値で510cm、短軸約44cm、深さ約14cmを測る。

〔堆積土〕4層に分層され、暗褐・黒褐色を呈し、自然堆積である(SPA~SPA')。

〔新旧関係〕切り合い関係から、溝7より古い。

〔出土遺物〕なし

溝7(第15図、PL5-6)

〔位置〕5H17・22グリッドに位置する。

〔形態・規模〕南西から北東方向へ延び、長さは残存値で220cm、幅約40cm、深さ約20cmを測る。

〔堆積土〕ロームブロックや玉砂利などが多く混入し、6層に分層される(SPF~SPF')。

〔新旧関係〕切り合い関係から、溝1より新しい。

〔出土遺物〕なし

焼土1(第15図、PL2-5)

〔位置〕5H18グリッドに位置する。

〔形態・規模〕平面形は楕円形を呈し、長軸42cm、短軸32cm、深さ8cmを測る。

〔堆積土〕赤褐色のローム粒を多く含む。

〔新旧関係〕なし〔出土遺物〕なし

第3調査区(第16図、PL2-6・8、5-7~15)

〔位置〕3H、4Iグリッドに位置する。

〔堆積土〕表土層の約10~15cm下にローム層(V層)が堆積する。

〔検出遺構〕溝3・4・8・9を検出し、平坦地が2面確認された。また、作物の植え付け用と思われる穴(攪乱)が多数確認された。

〔出土遺物〕溝3から鉄製品の釘、V層直上からガラスや近現代陶磁器が出土している。

溝3(第16図、PL2-6・8、5-8~11)

〔位置〕4I4・5グリッドに位置する。

〔形態・規模〕西から東方向へ直線的に延び、長さは400cm、幅約22cm、深さ底面に直径約20cm、深さ10~20cmの杭穴(P5~12)を8基併う。

〔堆積土〕1層に分層される(SPB~SPB')。

〔新旧関係〕なし

〔出土遺物〕覆土から木質が付着した鉄釘1点が出土している。

溝4 (第16図、PL2-8-5-13)

〔位置〕3I20グリッドに位置する。

〔形態・規模〕西から東方向へ直線的に延び、長さは残存値で280cm、幅約100cm、深さ約20cmを測る。

〔堆積土〕自然堆積を呈し、覆土上面にKordが層状に堆積し、2層に分層される(SPA~SPA')。

〔新旧関係〕なし 〔出土遺物〕なし

溝8 (第16図、PL5-12-15)

〔位置〕3H6・11グリッドに位置する。

〔形態・規模〕南から北方向へ直線的に延び、長さは残存値で540cm、幅約50cm、深さ約20cmを測る。

〔堆積土〕人為的堆積を呈し、5~10cm大のロームブロックが多量に混入している。

〔新旧関係〕なし 〔出土遺物〕なし

溝9 (第16図、PL5-14)

〔位置〕3H16、3I20グリッドに位置する。

〔形態・規模〕西から東方向へ延び、長さは残存値で50cm、幅約104cm、深さ約10cmを測る。

〔堆積土〕自然堆積を呈し、4層に分層される(SPA~SPA')。

〔新旧関係〕なし 〔出土遺物〕なし

第4調査区 (第17図、PL2-7-9-6)

〔位置〕10Jグリッドに位置する。

〔堆積土〕空壕の掘り上げ土と思われる盛土(土壘)が堆積している。

〔検出遺構〕空壕跡、土壘、土壕1~3を検出した。なお、今回遺構とはしなかったが、遺物が集中して見られた溝状黒色土範囲の概要をここで述べる。

〔出土遺物〕青磁碗8点、白磁皿6点、珠洲播鉢169点、銅銭6点が出土している。

空壕 (第17図、PL2-9-6-5)

〔位置〕10J13・14・18・19グリッドに位置する。

〔形態・規模〕箱掘を呈し、南から北方向へ延び、長さは残存値で398cm、上面幅約200~220cm、底面幅80~100cm、深さ約94cmを測る。

〔堆積土〕5~10cm大の玉砂利を多量に含み、人為的堆積を呈す。10層に分層される(SPA~SPA')。

〔新旧関係〕溝状黒色土範囲より下位の堆積が確認されたため、溝状黒色土範囲より古い。

〔出土遺物〕なし

土壘 (第17図、PL6-6-7)

〔位置〕10J13・18グリッドに位置する。

〔形態・規模〕長さは残存値で394cm、幅約127cm、深さ約128cmを測る。

〔堆積土〕玉砂利を多量に含み、13層に分層される(SPA~SPA')。

〔新旧関係〕土壕1~3より古い。

〔出土遺物〕なし

溝状黒色土範囲 (第17図、PL6-5-8)

〔位置〕10J14・19グリッドに位置する。

〔形態・規模〕長さは残存値で390cm、幅約190cm、深さ約18cmを測る。

〔堆積土〕4層に分層される(SPA~SPA')。

〔新旧関係〕空壕埋没後の堆積が確認されたため、空壕より新しい。

〔出土遺物〕青磁碗2点、珠洲播鉢39点、銅銭2点が出土している。

土壕1 (第17図、PL6-11)

〔位置〕10J17グリッドに位置する。

〔形態・規模〕平面形は楕円形を呈し、長軸142cm、短軸50cm、深さ約28cmを測る。

〔堆積土〕自然堆積を呈し、覆土上面にKord火山灰が層状に堆積し、6層に分層される(SPA~SPA')。

〔新旧関係〕切り合い関係から土壘より新しい。

〔出土遺物〕なし

土壕2 (第17図、PL6-9-10)

〔位置〕10J21・22グリッドに位置する。

〔形態・規模〕平面形は楕円形を呈し、長軸は残存値で76cm、短軸52cm、深さ約25cmを測る。

〔堆積土〕自然堆積を呈し、覆土上面にKord火山灰が層状に堆積し、5層に分層される(SPB~SPB')。

〔新旧関係〕切り合い関係から土壘より新しい。

〔出土遺物〕なし

土壕3 (第17図、PL6-12)

〔位置〕10J17グリッドに位置する。

〔形態・規模〕平面形は楕円形を呈し、長軸70cm、短軸40cm、深さ約20cmを測る。

〔堆積土〕黒色・黒褐色を呈し、自然堆積である。

〔新旧関係〕切り合い関係から土壘より新しい。

〔出土遺物〕なし

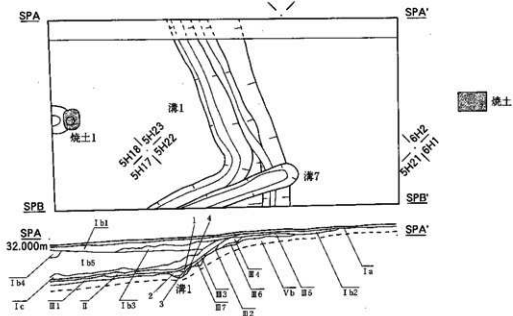


表8 第2調査区 南北東壁セクション (SPA~SPA')

Ia	10YR3/3	暗褐色		シルト	ややソフト	
Ib1	10YR3/3	暗褐色	玉砂利(1~3cm大)少量	シルト	ややハード	
Ib2	10YR5/4	黄褐色	玉砂利(1~3cm大)少量	シルト	ややハード	
Ib3	10YR2/3	黄褐色		シルト	ややソフト	炭粒微量
Ib4	10YR4/4	暗褐色	玉砂利(1~3cm大)少量 Ko-d粒少量	シルト	ややハード	
Ib5	10YR2/3	暗褐色	玉砂利(1~3cm大)少量 Ko-dブロック(3~5cm大) 中量、明褐色ローム ブロック多量	シルト	ハード	
Ic	10YR2/3	黒褐色	Ko-d塊状に多量	シルト	ややハード	
II	10YR2/3	暗褐色		シルト	ややハード	
III	10YR2/1	黒褐色		シルト	ややソフト	炭粒少量

II2	10YR2/3	黒褐色		シルト	ややソフト	炭粒微量	
II3	10YR2/2	暗褐色	Ko-d粒微量	シルト	ややソフト	炭粒微量	
II4	10YR3/4	暗褐色		シルト	ソフト		
II5	10YR4/4	暗褐色	Ko-d粒微量	シルト	ややソフト		
II6	10YR3/4	暗褐色	Ko-d粒微量	シルト	ややソフト		
II7	10YR3/4	暗褐色	Ko-d粒微量	シルト	ややソフト		
Vb	10YR5/6	黄褐色	玉砂利(1~3cm大)少量 Ko-d粒少量	ローム	ハード		
溝1	1	10YR2/1	黒色	Ko-d粒微量	シルト	ソフト	炭粒少量
	2	10YR1.7/1	黒褐色	Ko-d粒微量	シルト	ソフト	炭粒少量
	3	10YR1.7/1	黒褐色	Ko-d粒微量	シルト	ソフト	炭粒少量
	4	10YR2/1	黒褐色	Ko-d粒微量	シルト	ソフト	炭粒少量

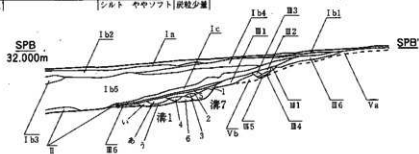


表9 第2調査区 南北西壁セクション (SPB~SPB')

Ia	10YR2/3	暗褐色		シルト	ややソフト	
Ib1	10YR4/3	にぶい 黄褐色	玉砂利少量	ややハード		
Ib2	10YR4/3	にぶい 黄褐色	ハードローム・玉砂利少量	シルト		炭少量
Ib3	10YR4/4	暗褐色	ハードローム少量	シルト		炭微量
Ib4	10YR3/3	暗褐色	玉砂利(1~3cm大)少量	シルト		
Ib5	10YR2/3	暗褐色	玉砂利(1~3cm大)少量 Ko-dブロック(3~5cm大) 中量、明褐色ローム ブロック多量	シルト	ハード	
Ic	10YR3/2	黒褐色		シルト	ややソフト	
II	10YR2/3	暗褐色	Ko-d塊状に多量	シルト	ややハード	
III	10YR3/2	暗褐色	ローム粒少量	シルト	ソフト	
II2	10YR2/2	暗褐色	ローム粒少量	シルト	ソフト	
II3	10YR3/3	暗褐色		シルト	ややソフト	
II4	10YR3/4	暗褐色		シルト		
II5	10YR3/3	暗褐色		シルト	ソフト	炭微量

II6	10YR4/3	にぶい 黄褐色	ソフトローム少量	粘性			
Va	10YR4/6	暗褐色	ソフトローム主体	ソフト			
Vb	10YR4/4	暗褐色	ハードローム主体	シルト	ハード		
溝1	あ	10YR2/1	黒色	Ko-d少量	シルト	ややハード	
	い	10YR2/3	暗褐色	Ko-d微量	シルト	ややハード	
	う	10YR2/3	暗褐色	ハードローム少量・玉 砂利微量	シルト	ややハード	
溝7	1	10YR3/3	暗褐色	ソフトローム少量	シルト	ソフト	
	2	10YR3/2	暗褐色	玉砂利・ハードローム 少量	シルト	ややソフト	炭粒少量
	3	10YR4/3	にぶい 黄褐色	ハードローム・玉砂利 少量	シルト	ややソフト	
	4	10YR3/2	暗褐色	ソフト・ハードローム 少量	シルト	ややソフト	炭粒少量
	5	10YR4/4	暗褐色	玉砂利少量	シルト	ややハード	炭粒微量
	6	10YR4/4	暗褐色	玉砂利微量	シルト	ややハード	



第15図 第2調査区平面図他

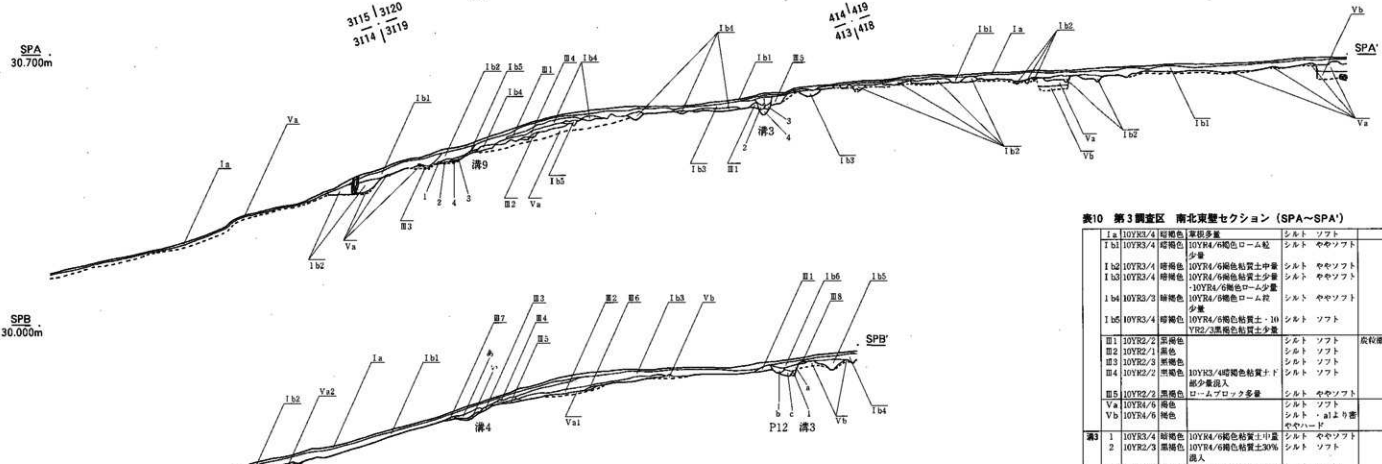
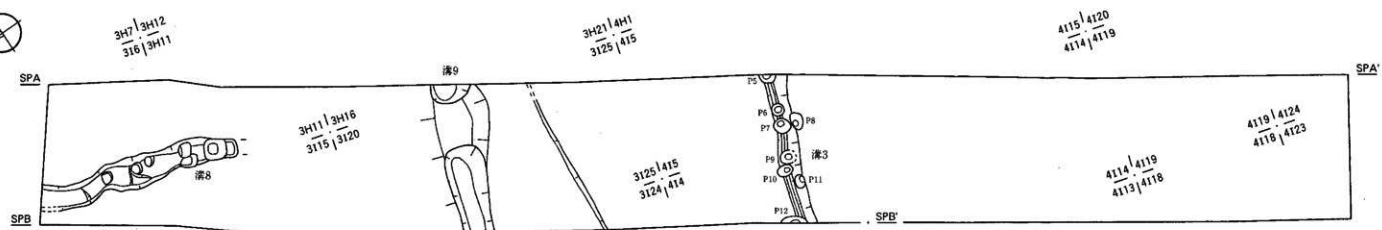


表10 第3調査区 南北東壁セクション (SPA~SPA')

番号	層番号	土質	特徴	層厚
1	1b1	10YR3/4	暗褐色	単相多量
	1b2	10YR3/4	暗褐色	10YR4/6褐色粘質土中量
	1b3	10YR2/1	黒色	10YR4/6褐色粘質土中量
	1b4	10YR2/2	黒褐色	10YR4/6褐色粘質土少量
	1b5	10YR3/4	暗褐色	10YR4/6褐色粘質土-10YR2/3黒褐色粘質土少量
2	II1	10YR2/2	黒褐色	少量
	II2	10YR2/1	黒色	少量
	II3	10YR2/2	黒褐色	少量
	II4	10YR2/2	黒褐色	10YR3/4暗褐色粘質土少量
3	III	10YR2/2	黒褐色	少量
	IV	10YR4/6	褐色	少量
4	Va	10YR2/2	黒褐色	10YR4/6褐色粘質土少量
	Vb	10YR4/6	褐色	10YR4/6褐色粘質土少量
	Vb	10YR4/6	褐色	10YR4/6褐色粘質土少量
5	VI	10YR2/2	黒褐色	少量
	VII	10YR2/2	黒褐色	少量
6	1	10YR3/4	暗褐色	10YR4/6褐色粘質土少量
	2	10YR2/2	黒褐色	10YR4/6褐色粘質土30%混入
	3	10YR2/2	黒褐色	10YR4/6褐色粘質土少量
	4	10YR2/2	黒褐色	10YR3/4暗褐色粘質土中量
7	Va	10YR4/6	褐色	10YR4/6褐色粘質土少量
	Vb	10YR4/6	褐色	10YR4/6褐色粘質土少量
	Vb	10YR4/6	褐色	10YR4/6褐色粘質土少量

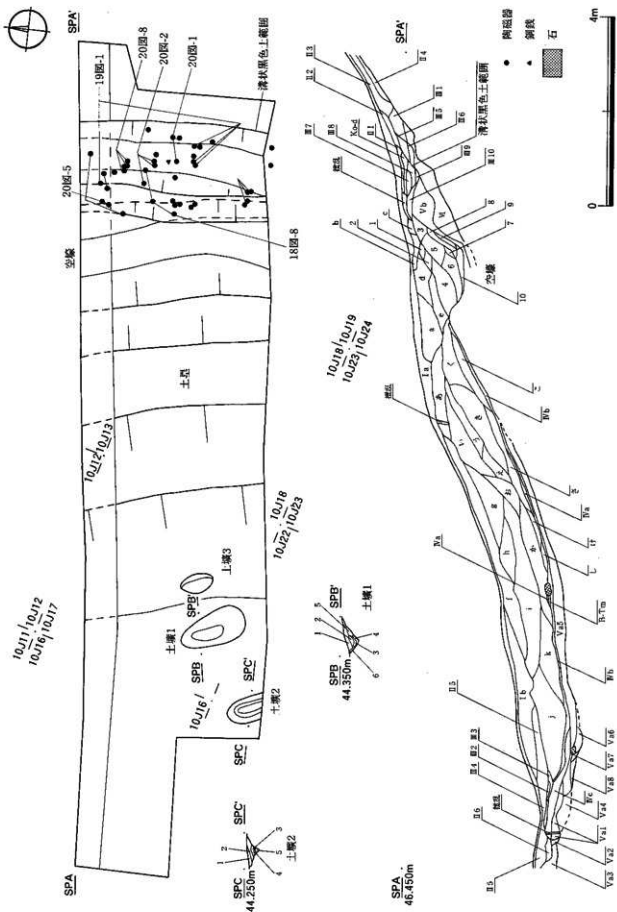
表11 第3調査区 南北西壁セクション (SPB~SPB')

番号	層番号	土質	特徴	層厚
1	I1a	10YR3/4	暗褐色	単相多量
	I1b1	10YR3/4	暗褐色	単相多量
	I1b2	10YR2/1	黒色	Ko-d粘質
	I1b3	10YR3/4	暗褐色	単相多量
	I1b4	10YR3/4	暗褐色	単相多量
	I1b5	10YR3/4	暗褐色	10YR4/6褐色粘質土少量
	I1b6	10YR3/4	暗褐色	10YR4/6褐色粘質土少量
2	II1	10YR2/1	黒色	単相多量
	II2	10YR2/2	黒褐色	Ko-d粘質混入
	II3	10YR2/2	黒褐色	単相多量
	II4	10YR2/2	黒褐色	単相多量
	II5	10YR2/2	黒褐色	単相多量
	II6	10YR3/4	暗褐色	単相多量
	II7	10YR2/2	黒褐色	単相多量

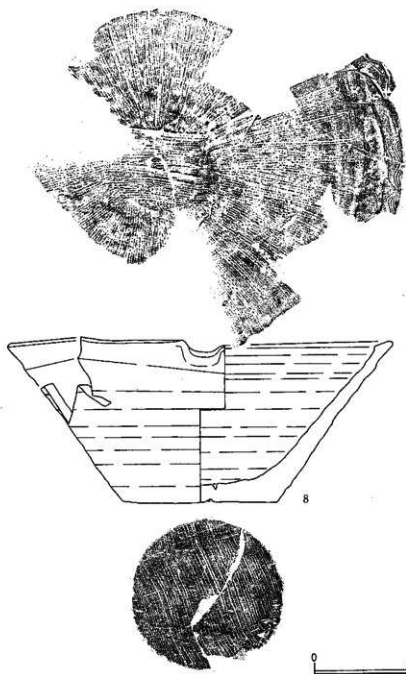
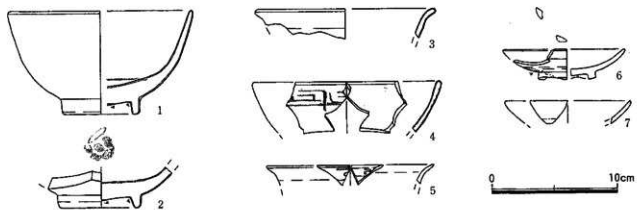
番号	層番号	土質	特徴	層厚
1	III1	10YR2/2	黒褐色	単相多量
	III2	10YR2/2	黒褐色	単相多量
	III3	10YR2/2	黒褐色	単相多量
	III4	10YR2/2	黒褐色	単相多量
2	IV1	10YR4/6	褐色	単相多量
	IV2	10YR4/6	褐色	単相多量
	IV3	10YR4/6	褐色	単相多量
	IV4	10YR4/6	褐色	単相多量
3	V1	10YR4/6	褐色	単相多量
	V2	10YR4/6	褐色	単相多量
	V3	10YR4/6	褐色	単相多量
	V4	10YR4/6	褐色	単相多量
4	VI1	10YR2/2	黒褐色	単相多量
	VI2	10YR2/2	黒褐色	単相多量
	VI3	10YR2/2	黒褐色	単相多量
	VI4	10YR2/2	黒褐色	単相多量

第16図 第3調査区平面図

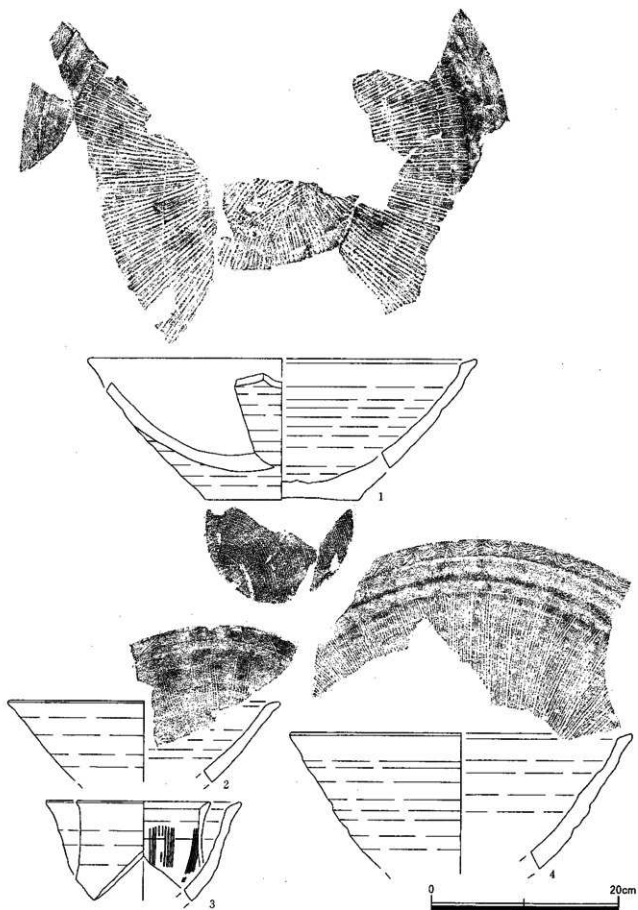




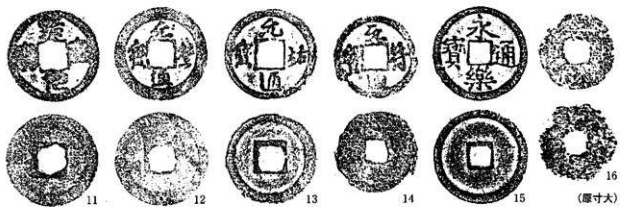
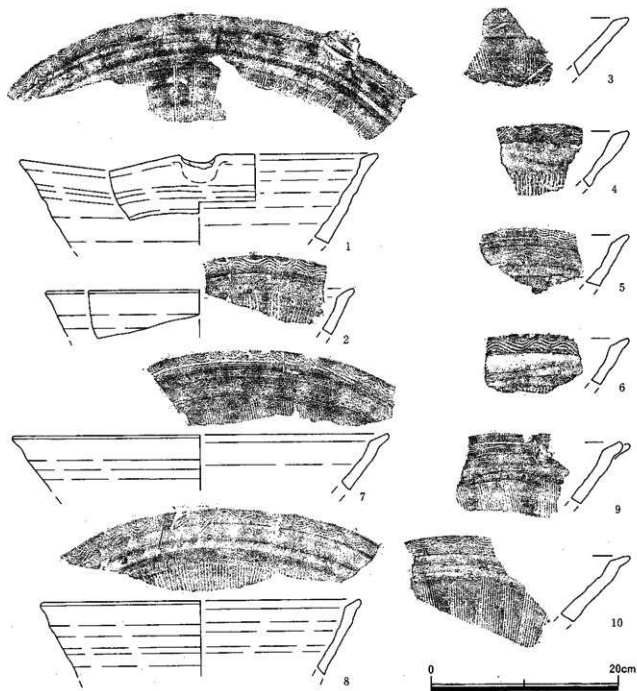
第17図 第4調査区平面図他



第18図 出土遺物7 (陶磁器)



第19図 出土遺物 8 (陶磁器)



第20圖 出土遺物9 (陶磁器・銅製品)

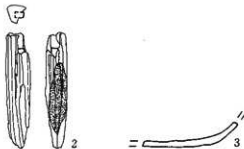
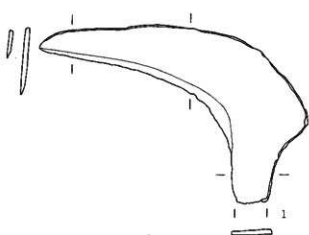


表12 第4調査区 東西北壁セクション (SPA~SPA')

	1a	10YR2/2	黒褐色	草根多量	玉砂利混入	ソフト		
	1b	10YR2/3	暗褐色	玉砂利多量		ややソフト		
	E1	10YR3/3	暗褐色			ややハード		
	E2	10YR3/1	黒褐色	玉砂利少量				
	E3	10YR3/3	暗褐色	玉砂利多量		ややソフト		
	E4	10YR3/2	黒褐色	玉砂利(1~3cm大)多量		やや密		
	D5	10YR2/2	黒褐色	玉砂利・磁粒少量		ややソフト		
	D6	10YR2/3	黒褐色	玉砂利少量		Ⅱ-5よりソフト	炭酸塩	
	M1	10YR3/1	暗褐色	玉砂利多量		ソフト		
	M2	7.5YR3/4	暗褐色	黒色土少量混入				
	M3	10YR4/7	黒色	7.5YR3/4暗褐色土少量		ソフト		
	B4	10YR2/2	褐色	Ko-d少量		ややソフト		
	B5	10YR3/1	暗褐色	玉砂利中量		ややソフト		
	B6	10YR3/1	暗褐色	玉砂利多量		ややソフト		
溝状 黒色土 範囲	B7	10YR2/2	暗褐色	玉砂利少量		ハード	やや粘質	炭酸塩
	B8	10YR2/2	暗褐色	玉砂利少量		ハード	やや粘質	炭酸塩
	B9	10YR2/2	黒色	玉砂利少量		ソフト		炭化材 少量
	B10	10YR2/2	黒褐色	下砂利多量		ややハード		やや密
	Fa	10YR2/2	黒褐色	B-7混入少量		ソフト		炭酸塩
	Fb	10YR2/3	黒褐色	B-7混入多量		ソフト		炭酸塩
	Fc	10YR2/4	黒褐色	B-7混入少量		ソフト		炭酸塩
	Va1	7.5YR3/3	褐色	玉砂利少量		ややソフト		
	Va2	10YR4/6	褐色	玉砂利少量		ややソフト		
	Va3	10YR4/6	褐色	土砂利少量		ややソフト		
	Va4	7.5YR4/6	褐色	玉砂利多量				
	Va5	7.5YR4/6	褐色					
	Va6	10YR2/3	暗褐色	磁土粒少量		シルト	ハード	炭酸塩
	Va7	10YR3/4	暗褐色					
	Va8	10YR3/4	暗褐色					
	V	10YR3/4	暗褐色	土砂利少量		ハード	密	
	W	10YR3/4	暗褐色	磁土粒・玉砂利少量		シルト	ハード	
土層	a	10YR4/3	にぶい 黄褐色	下砂利多量		ややハード		
	い	7.5YR4/4	褐色	玉砂利多量	炭酸塩少量	ややソフト		
	う	7.5YR4/4	褐色	玉砂利多量	黒磁粒・石 少量	ソフト		
	え	7.5YR4/4	褐色	下砂利多量		ややソフト		
	お	7.5YR4/4	褐色	玉砂利・石・黒磁粒多量		ソフト		
	か	7.5YR4/4	褐色	玉砂利・石多量				
	キ	7.5YR4/4	褐色	下層Ko-d多量				
	ク	7.5YR4/3	褐色	玉砂利混入		ややハード		
	ケ	10YR4/4	褐色	玉砂利少量		シルト	ハード	
	コ	10YR3/4	暗褐色	玉砂利(1~3cm大)少量		シルト	ハード	
	ク	10YR3/4	暗褐色	玉砂利少量・ソフトロ-ム 少量		ややソフト		
	キ	10YR4/4	褐色	玉砂利多量				
	シ	10YR4/6	褐色	ソフトロ-ム・黒色土・玉 砂利少量				
穿壁	1	10YR4/4	褐色	玉砂利少量		ややハード		
	2	10YR4/3	にぶい 黄褐色	玉砂利多量		ややハード		
	3	10YR4/4	褐色	土砂利中量		(I)よりやや粘い 密	ややハード	
	4	10YR3/4	暗褐色	全面玉砂利(5~10cm大)				
	5	10YR4/4	褐色	玉砂利(1~3cm大)		密		

	6	10YR4/4	褐色	玉砂利(5~10cm大)		(4)より締まり右		
	7	10YR4/4	褐色	粘質土層	玉砂利多量	シルト	ややハード	
	8	10YR4/4	褐色	ハードロ-ム	玉砂利少量	シルト	密	
	9	10YR4/4	褐色	ハードロ-ム	玉砂利少量	シルト	密	
	10	10YR4/4	褐色	土砂利(5~10cm大)多量		ソフト	粗	
土層1	a	10YR3/4	暗褐色	ハードロ-ム・玉砂利少量		ソフト		
	b	10YR3/4	暗褐色	玉砂利少量		ハード		
	c	10YR4/4	褐色	玉砂利少量		ハード		
	d	10YR3/4	暗褐色	ハードロ-ム・玉砂利少量		ソフト		
	e	10YR4/6	褐色	ハードロ-ム・下砂利少量		ソフト		
土層2	f	10YR4/3	にぶい 黄褐色	玉砂利多量		シルト	ソフト	炭酸塩
	g	10YR4/3	にぶい 黄褐色	下砂利・石中量		粗	ややソフト	
	h	7.5YR4/4	褐色	玉砂利多量		粗	ややソフト	炭酸塩
	i	10YR4/4	褐色	玉砂利・黒磁粒多量		粗	ややソフト	
	j	10YR4/4	褐色	玉砂利多量		粗	ややハード	
	k	10YR4/4	褐色	土砂利多量		ややソフト		

表13 第4調査区 土層1 (SPB~SPB')

土層1	1	10YR3/1	黒褐色	Ko-d粒少量		シルト	ややソフト	
	2	10YR3/1	黒褐色	Ko-d粒・ロ-ム粒少量		シルト	ややソフト	
	3	10YR2/1	褐色			シルト	ややソフト	
	4	10YR2/1	黒褐色	ロ-ムブロック少量		シルト	ややソフト	
	5	10YR3/3	暗褐色	50~2cm大玉砂利少量		シルト	ややソフト	
	6	10YR3/3	黒褐色			シルト	ソフト	

表14 第4調査区 土層2 (SPC~SPC')

土層2	1	10YR2/2	暗褐色	Ko-d粒少量		シルト	ソフト	
	2	10YR3/1	黒褐色			シルト	ややソフト	
	3	10YR2/1	黒褐色	下砂利少量		シルト	ややソフト	
	4	10YR2/1	黒色			シルト	ソフト	
	5	10YR3/1	黒褐色	ロ-ム粒少量		シルト	ややハード	

第21図 出土遺物10 (鉄製品)

2. 出土遺物

本調査からは、破片数で209点の遺物が出土している。実測・写真等の報告書掲載遺物に関しては、観察表を付した(表15)。

a. 陶磁器 (18~20図-10、P L11-1~22)

中世陶磁器は総破片数183点で、個体数にして4.67個体(口縁部個体数)である。貿易陶磁は、青磁8点、白磁6点で構成される。国産陶磁は、珠洲169点のみで構成され、全体として珠洲が大きな割合を占めている。

遺物のほとんどは、第4調査区の溝状黒土範囲からの出土である。

青磁 (18図-1~4、P L2-13、11-1~4)

器種は碗で構成され、龍泉窯系統D2類2点、龍泉窯系統E類5点、龍泉窯系統不明1点が出土している。見込みは印花文を施し、高台裏は釉が輪状に削り取られるものが多く見られる。

なお、昨年度調査で、龍泉窯系統C2類の外圍口縁部に雷文帯を施すものが1点出土しているが、昨年度調査報告書で未報告であったため今年度報告書に掲載した。

白磁 (18図-6・7、P L11-5~7)

器種は皿で構成され、D群丸皿が出土している。高台は切高台である。

染付 (18図-5、P L2-13)

本調査では出土しなかった。なお、昨年度調査で、端反碗B群が出土しているが、昨年度調査報告書で未報告のため今年度報告書に掲載した。

珠洲 (18図-8~20図-10、P L11-9~22)

器種は鉢で構成され、吉岡編年V~VI期に相当するものが出土している(吉岡1994)。口縁部に櫛目波状文を施さないものが少量見られる。

接合関係では、第4調査区と昨年度の頂上部で行なわれた発掘調査から出土したものが接合している。

b. その他 (20図-11~21-3、P L11-23~26-33)

鉄製品は、鉄釘1点、鎌1点、茶釜1点出土している。銅製品は、銭が最古銭を熙寧元寶(北宋1068年)、最新銭を永樂通寶(明1408年)として6点出土している。石製品は、茶臼1点出土している。

表15 花沢館跡 出土遺物観察表

図号	PLNo	グリッド	遺物	単位	調査区	種類	器種	数量	整理No
18図-1	PL11-1	10J14	焼状	甎	4	青磁	碗	龍泉窯系統D類、口径14.7×器高8.2×底径6.4cm	接合No3
18図-2	PL11-3	10J13	1	4	青磁	碗	龍泉窯系統不明、底径6.2cm、内面-見込花文	10J13-1E1	
18図-3	PL11-2	10J14	焼状	甎	4	青磁	碗	龍泉窯系統D類、底径6cm、口径14.5cm	接合No32
	PL11-4	10J14	1	4	青磁	碗	龍泉窯系統D類	10J14-1E2	
18図-4	PL2-13	11J10	1	4	青磁	碗	龍泉窯系統C2類 L径14.7×器高3.9~4.1cm 外圍-口縁部雷文帯	041110-4E1-E1イ、E2	
18図-5	PL2-13	11J15	1	4	染付	碗	端反碗B群 口径13.3×器高1.6cm 外圍-口縁部心文、内圍-口縁部梵字?	041115-3E1-E2	
18図-6	PL11-7	10J11	1	4	白磁	皿	D群丸皿 口径9.2×器高2.5×底径4.5cm、外圍-腰線筋、内圍-口縁部	接合No34	
18図-7	PL11-5	10J14	1	4	白磁	皿	D群丸皿、口径9.0cm、外圍-腰線筋	10J14-1E4	
18図-8	PL11-8	10J14-19	焼状	甎	4	珠洲	鉢	V群、口径40.4×器高17.2×底径15.9cm、外圍-口縁部目文、内圍-口縁部櫛目波状文、胴部-見込金剛目、底部静止糸切り痕	接合No10
19図-1	PL11-9	10J14-19	焼状	甎	4	珠洲	鉢	V群、口径41.2×器高15.7×底径15.0cm、内圍-口縁部目文、胴部-見込金剛目、底部静止糸切り痕	接合No11
19図-2	PL11-10	10J14	焼状	甎	4	珠洲	鉢	V群、口径29.0、内圍-胴部目線、'94年度の遺物と接合	接合No11
19図-3	PL11-11	10J14	1	4	珠洲	鉢	V群、口径29.0cm、内圍-胴部目線9条+スス	接合No12	
19図-4	PL11-12	10J14	焼状	甎	4	珠洲	鉢	V群、口径29.2cm、内圍-口縁部目文、胴部目線11条、反切筋あり	接合No5
20図-1	PL11-13	10J14-19	焼状	甎	4	珠洲	鉢	V群、口径28.3cm、外圍-口縁部目文、内圍-口縁部目文、胴部金剛目	接合No19
20図-2	PL11-14	10J14	焼状	甎	4	珠洲	鉢	V群、口径28.8cm、内圍-口縁部目文、胴部金剛目	接合No13
20図-3	PL11-15	10J14	1	4	珠洲	鉢	V群、内圍-胴部目線	10J14-1E40	
20図-4	PL11-19	10J14	焼状	甎	4	珠洲	鉢	V群、内圍-口縁部目文、胴部金剛目	接合No12
20図-5	PL11-16	10J19	焼状	甎	4	珠洲	鉢	V群、口径26.9cm、外圍-口縁部目文、内圍-口縁部目文、胴部目線	接合No14
20図-6	PL11-17	10J19	焼状	甎	4	珠洲	鉢	V群、内圍-口縁部目文、胴部目線	10J19E2履土-E30
20図-7	PL11-18	10J19	焼状	甎	4	珠洲	鉢	V群、口径40.1cm、内圍-口縁部目文、胴部金剛目	接合No7
20図-8	PL11-22	10J14-19	焼状	甎	4	珠洲	鉢	V群、外圍-口縁部目文、内圍-口縁部目文、胴部目線10条	接合No6
20図-9	PL11-20	10J14	1	4	珠洲	鉢	V群、内圍-口縁部目文、胴部目線	10J14-1E56	
20図-10	PL11-21	10J19	焼状	甎	4	珠洲	鉢	V群、口径29.0cm、内圍-口縁部目文、胴部目線	10J19E2履土-E35
20図-11	PL11-27	10J14	1	4	磁器品	碗	唐楽元寶(鎌倉) 外径2.66cm 内径2.03cm 厚さ0.21cm 重量3.5g	10J14-1E21	
20図-12	PL11-28	10J14	1	4	磁器品	碗	元徳通寶(行幸) 外径2.58cm 内径1.80cm 厚さ0.18cm 重量3.0g	10J14-1E24	
20図-13	PL11-29	10J14	表層	1	磁器品	碗	元徳通寶(行幸) 外径2.51cm 内径1.68cm 厚さ0.20cm 重量3.4g	表層-21	
20図-14	PL11-30	10J14	1	4	磁器品	碗	元徳通寶(行幸) 外径2.30cm 内径1.43cm 厚さ0.16cm 重量2.4g	14J14-1E22	
20図-15	PL11-31	10J14	1	4	磁器品	碗	永樂通寶 外径2.61cm 内径1.92cm 厚さ0.24cm 重量3.4g	14J14-1E23	
20図-16	PL11-32	10J14	焼状	甎	4	磁器品	碗	明徳1.11cm 厚さ0.16cm 重量1.7g、2枚文	10J14E2履土-E21
	PL11-30	10J12	1	1	石製品	茶臼	高さ14.2cm 直径19.0cm 底径20.0cm 重量3.35kg	10J12-1S1	
21図-1	PL11-32		表層	4	鉄製品	釘	長さ14.2cm 幅3.5mm 厚さ0.3cm 重量20.3g	表層-M1	
21図-2	PL11-24	41.4	溝	3	鉄製品	釘	長さ(8.1)cm 幅(0.4)cm 厚さ(0.3)cm 重量8.2g 木質付着	414E2履土-M1	
21図-3	PL11-25		表層	4	鉄製品	釘	長さ0.4cm 重量39.4g	表層-M2	
	PL11-26	10J14	1	4	不明者	不明	長さ2.12cm 幅0.56cm 厚さ0.26cm 重量0.3g	10J14-1N1	

表16 花沢館跡 出土遺物集計表

種類	器種	分類	破片数	種類	器種	分類	破片数	種類	器種	分類	破片数
青磁	碗	龍泉窯系D2類	2	鉄製品	釘		1	石製品	茶臼		1
		龍泉窯系E類	5		茶臼		1	石器			2
		龍泉窯系不明	1		錫		1	自然石			2
	小	計	8		鎌		1	不明土器	不明		10
白磁	皿	D群	6		小	計	4	不明骨	不明		1
珠洲	撥鉢	V-VI期	169	銅製品	鉸		6		総	計	209

小 括

1. 上ノ国市街地遺跡（山本吉春氏宅地点）

検出遺構

【溝1】

溝1は、出土遺物から16世紀末～17世紀初頭の遺構と思われるが、同時期の溝は、平成13年度の長谷川義章氏宅調査においても検出されている。長谷川氏宅で検出された溝は、木製品が多数出土し、軸が東西方向から直角に曲がり、海へ向かって延びていることから、土地の区画や生活排水・ゴミ等を流す水路としての利用が窺える。溝1は、長谷川氏宅の溝のようなカーブは見られないが、規模などから同様の性格と思われる。

【柱列】

柱列1は、切り合い関係から柱列2より古く、柱列4は同様に柱列5より古い。

また、柱列1は切り合い関係から溝1より新しく、柱列5は洋釘が使用される木製容器を収めた土壇3より新しい。洋釘は、日本に明治10年（1877）頃に輸入し始めるので、柱列5はそれ以降に構築されたものであろう。

柱列4は、軸方向が溝1と同一方向を呈するため、溝1と併行する時期の柱列と思われる。

古い順から柱列4→柱列1・柱列3・柱列2→柱列5とし、16世紀末～近現代までの年代幅を想定した。各柱列の実年代については、柱穴からの出土遺物によっても検討すべきであるが、今回は行うことができなかった、今後の課題としたい。

出土遺物

【縄文土器】

縄文土器は、IV群c類が主体となって出土したが、土器編年で示される前後関係を調査で確認することができなかった。8図-11・12（PL4-2）は、一括出土品である。

【統縄文土器】

本調査では、統縄文時代の包含層を初めて上ノ

国市街地遺跡で確認することができた。9図-1・2は同一個体と思われる。

【擦文土器】

堯は、大小2法量存在し、外面の調整は土師器で多く見られるヘラ状工具によるケズリ調整である。内耳鍋は、ワシリ遺跡（口径約27cm）や米沢氏宅（口径約24cm）で見つかったものと比較すると小型の法量（口径約15cm）を呈す。

【陶磁器】

15世紀中頃では、龍泉窯系青磁碗B2・D2類、白磁D群丸皿（平高台）、古瀬戸後、古段階の灰釉鉾目付大皿、15世紀第4四半期～16世紀第2四半期では、瀬戸・美濃灰釉皿、染付碗C群、16世紀第4四半期では、胎土目の唐津や大瀬第4段階の瀬戸美濃などを始めとして、それ以後は肥前系陶磁器が一定量出土している。

各時期の陶磁器の出土量を見ると、15世紀第4四半期～16世紀第2四半期のものが他と比較して少ない。この時期は、勝山館跡において最も遺物量が豊富な時期であるが、今回の調査ではほとんど確認することができなかった。

【かわらけ】

II層（近世～近現代）の出土であり、弘前城などで確認される近世のものと思われるが、筆者が近世のかわらけを実見したことがなく、結論を留保したい。

2. 史跡上之国花沢館跡

検出遺構

【掘列1】

掘列1は、平面プランやセクションから溝を掘り、杭を打ち込んで構築するタイプのもので想定した。

また、第3調査区においても杭穴を伴う溝3が検出された。溝3では、杭穴が揃わないことなどから現時点では溝としたが、掘列1が平坦面2の

北側端に位置し、その延長線上に溝3が位置すること、さらに標高約30mとほぼ両遺構ともに同じ標高値を示すといったことから、溝3は欄列1の延長部分としての可能性も考えたい。

【空壕】

空壕は、位置・堀底の形態やその規模から昨年検出した空壕（PL2-10）の延長部分と思われる、人為的な堆積を呈し、堆積土の方向から館内側からの埋め戻しを想定した。当初、空壕館内側の地山部分に空壕に沿うように窪みが確認されたため、空壕埋め戻し時の掘削痕とも考えたが、自然のものとしての可能性もあり、今回結論をだすことができなかった。

【土塁】

土塁は、空壕を掘削した際の掘り上げ土を利用して構築している。土塁西側斜面に、土塁の崩落土が見られる。

【溝】

溝1と溝2とは、斜面直下に構築され、またその位置や軸方向から同一の溝と思われる。

溝7は、覆土にロームや王砂利などが多く混入し、斜面を縦断するように構築されるので曲輪を往来する通路跡とも想定したが、部分的な調査のため、その詳細は不明である。通路は、大正5年

の測量図には、第3調査区を設定した舌状台地に道路跡を記している（北海道史1918）。現在では舌状台地の先端部は、国道敷設時に削平されており、館に至る通路も変更している。

出土遺物

今年度の調査では、青磁龍泉窯系統B2・D2・E類、白磁丸皿D類（平高台）、珠洲播鉢では、期を主体として、VI期も出土している。

昨年度調査のものを含めると、青磁龍泉窯系統C2類・皿・盤、青磁染付碗B群、瀬戸皿が加わり、これらは15世紀中頃の年代を示す遺物群である。

花沢館跡では、十三湊遺跡（1442年廃絶）や志海苔館跡（1457年廃絶）からは出土しない染付や青磁龍泉窯系統C2類が確認されるため、15世紀後半、「コシャマインの戦い」の後まで館が機能したことが推測される。

さらに、花沢館跡から出土する播鉢がすべて珠洲に対し、勝山館跡ではその大半が越前で構成されるため、花沢館跡は勝山館跡が築かれる1470年代より以前の廃絶が考えられる。

このことは、「新羅之記録」で花沢館跡が陥落しなかったことと符合し、また少なくとも「福山秘府」に記される蠣崎季繁の没年代の1462年頃まで館が機能していたことを窺うことができる。

まとめ

花沢館跡では、建物跡が検出されず、年代幅も短く臨時的な山城（詰城）の様相を呈するため、館主である蠣崎季繁の居館は、上ノ国市街地遺跡に存在する可能性の高いことが想定された。

出土遺物からは、文献資料と考古学の成果が一致することで花沢館跡の下限の年代を裏付けることができた。このことは、2年間の調査で最も大きな成果ではなかったかと思う。

また、第4調査区の出土遺物は、接合関係から頂上部より廃棄されたものと考えられ、逆に頂上部の遺物の集中を際立たせる結果となった。

上ノ国村史には、慶長15年（1610）3月公家の花山院忠長が流罪となり、花沢館にしばらく滞在したとある（松崎1956）。

しかしながら、昨年度からの調査で近世初頭の年代を示す遺構・遺物は確認されないため、花沢館においてそのような事実はなかったと思われる。

天ノ川左岸に位置する上ノ国市街地遺跡は、中

世において過去の住宅建替への調査も含め、出土陶磁器が花沢館跡ともに15世紀中頃を上限とするため、十三湊遺跡の安藤氏没落後に渡した蠣崎季繁、武田信広らによって館と同時に形成されたと思われる。

上ノ国市街地遺跡で勝山館併行期の遺物がその前後する時期と比較して少ないことは、花沢館から勝山館という臨時的な山城から恒常的な山城といった変化に城下が呼応したとも想定できるが、当時期の上ノ国市街地遺跡の町割り不明瞭なため、それをまざまらかにする必要がある。

最後に、紙幅の関係から十分な検討を行うことができなかったが、今回調査を行なうにあたり、土地所有者の山本吉春氏、並びに上ノ国八幡宮宮司松崎辰彦氏には、多くのご支援ご協力を賜りました。

末尾ではありますが、心より感謝申し上げます。

写 真
图 版



1. 第1調査区 Ⅲ層 検出 (西から)



3. 第2調査区 セクション (南から)



4. 第2調査区 溝7・1 セクション (東から)



2. 第1調査区 構列1 完備状況 (東から)



5. 第2調査区 焼土 検出 (南から)



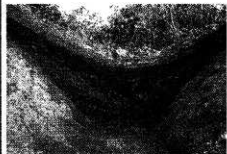
6. 第3調査区 溝3 セクション (西から)



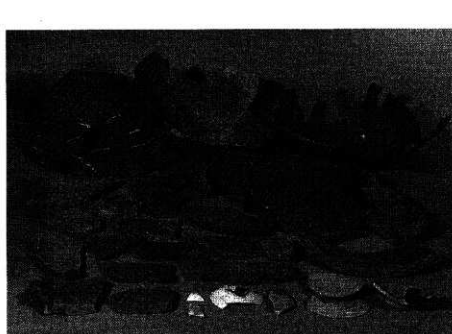
7. 第4調査区 溝1 黒色土胎面 検出状況 (南から)



8. 第3調査区 溝4 Ko-d 検出状況 (東から)



9. 第4調査区 空堀・溝1 黒色土胎面 セクション (北から)



11. 出土遺物



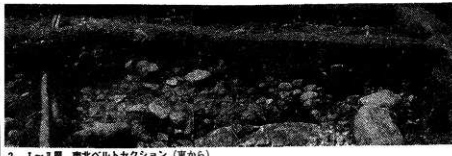
12. 出土遺物 (銅州 鐘鉢)



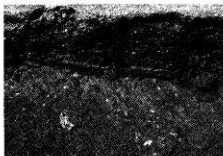
13. '04年度出土遺物 (青磁・染付)



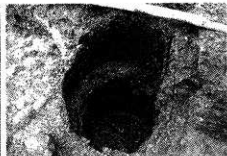
1. 調査前風景 (北東から)



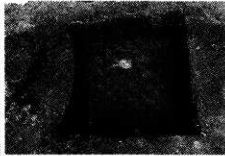
2. I~II層 南北ベルトセクション (東から)



3. I~II層 東西ベルトセクション (南から)



4. 土竈1 (近現代) 掘 出土状況 (南西から)



5. 土竈3 (近現代) (西から)



6. 井戸 (近現代) 検出 (東から)



7. 井戸 (近現代) 検出 (東から)



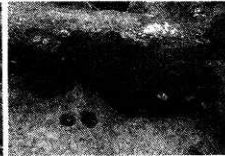
8. PH1 柱抜き取り穴セクション (西から)



9. II層 遺物出土状況 (西から)



10. II層 遺構検出 (北から)



11. I層 セクション (東から)



12. I層 光掘 (東から)



13. 灰・炭化物範囲 陶磁器出土状況 (東から)



14. II層 遺物出土状況 (北から)



15. I/a層 内耳土竈出土状況 (南から)



16. I/a層 内耳土竈出土状況 (南から)



17. I/a層 縄文土器一拵出土状況 (北東から)



1. 第4調査区 調査前 (西から)



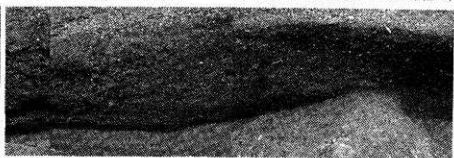
2. 第4調査区 遺物出土状況 (西から)



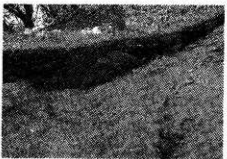
3. 第4調査区 溝状黒色土層面 遺物出土状況 (北から)



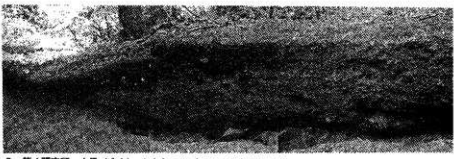
4. 第4調査区 溝状黒色土層面 遺物出土状況 (東から)



6. 第4調査区 土壁 (盛上) セクション (南から)



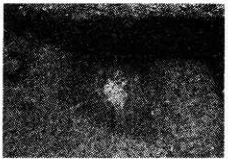
5. 第4調査区 空層・溝状黒色土層面 セクション (南から)



7. 第4調査区 土壁 (盛上) セクション (6から続く) (南から)



8. 第4調査区 溝状黒色土層面 セクション (南から)



9. 第4調査区 土壁2 検出 (南から)



12. 第4調査区 発掘 (西から)



10. 第4調査区 土壁2 セクション (北から)



11. 第4調査区 土壁1 セクション (北から)



13. 第4調査区 発掘 (東から)

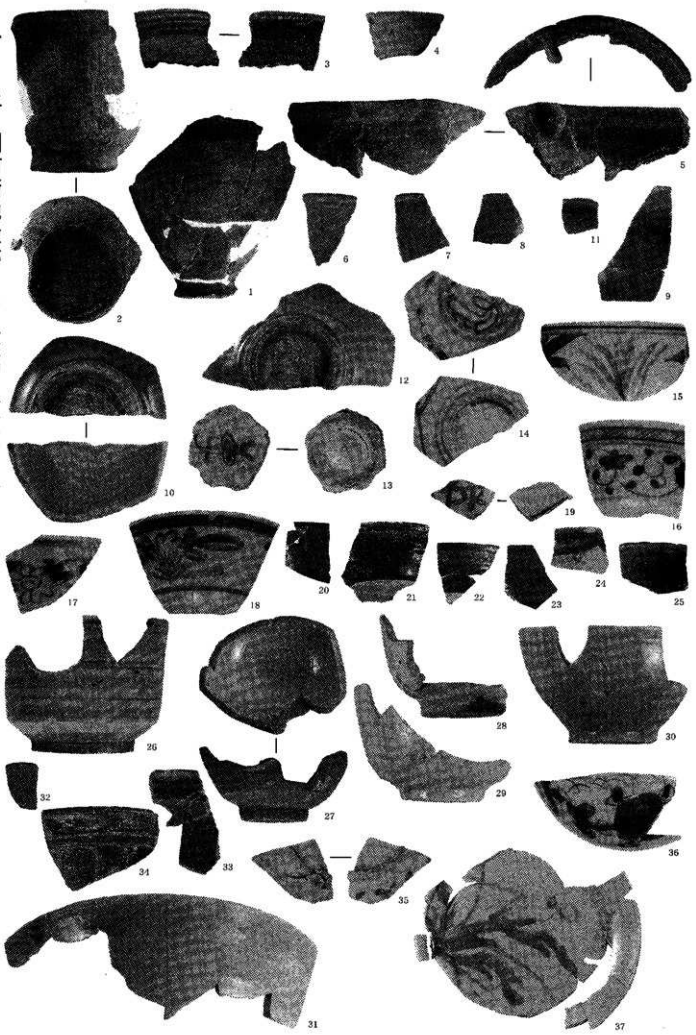


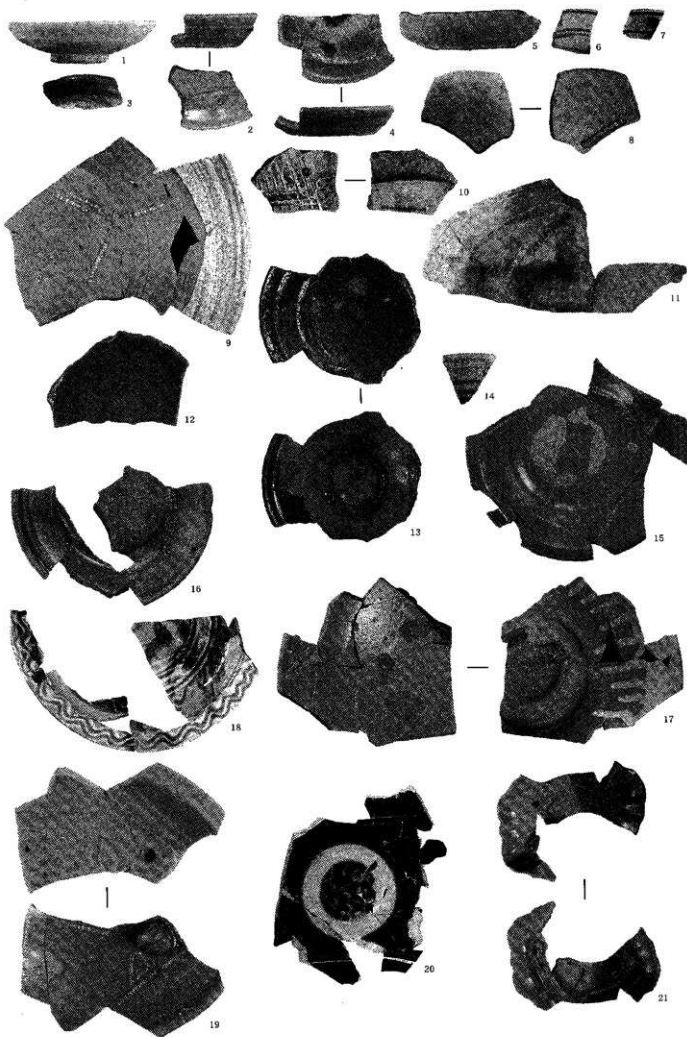
14. 第4調査区 調査風景 (東から)

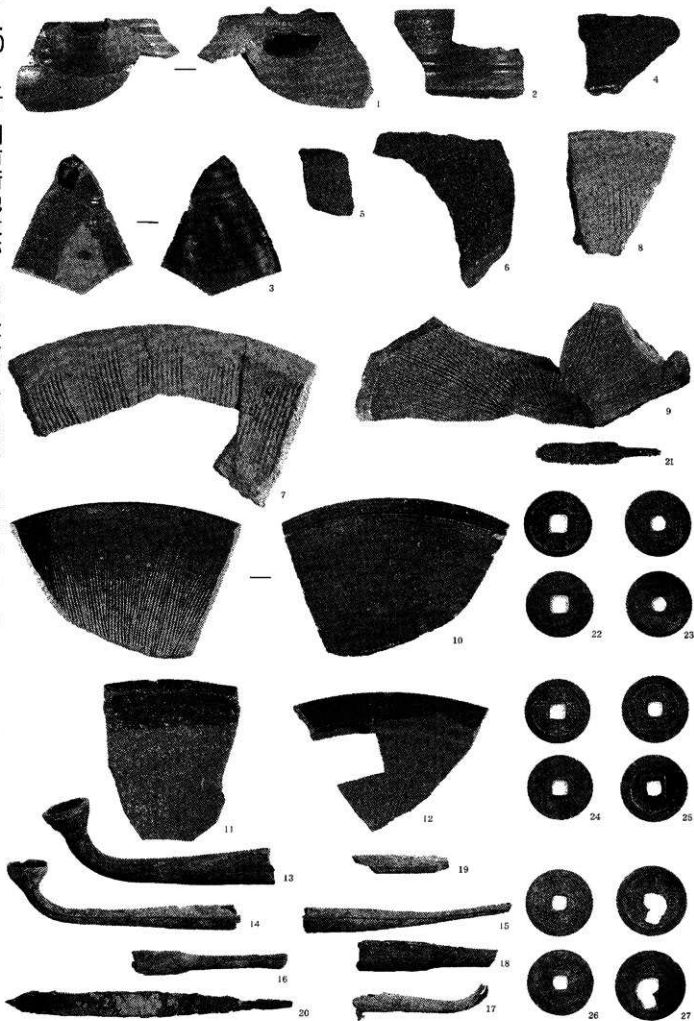


15. 現地説明会 (西から)











報告書抄録

ふりがな	ちょうないいせきはくつちょうさとうじぎょうほうこくしょ ちょうさへん							
書名	町内遺跡発掘調査等事業報告書Ⅹ 調査編							
副書名	上ノ国市街地道跡(山本吉春氏宅地点) 史跡上之国花沢館跡分布調査							
巻次	8							
シリーズ名	町内遺跡発掘調査等事業							
シリーズ番号	9							
編著者名	斉藤邦典 塚田直哉							
編集機関	上ノ国町教育委員会							
所在地	〒049-0611 北海道檜山郡上ノ国町字大留100 ☎0139-55-2230							
発行年月日	2006年3月31日							
ふりがな	ふりがな	コード		北緯	東経	調査期間	調査面積	調査原因
所収遺跡名	所在地	市町村	遺跡番号					
上ノ国市街地道跡(山本吉春氏宅地点)	上ノ国町字上ノ国 227-1他	013625	C-02-88			平成17年6月15日～平成17年7月15日	85㎡	町内遺跡発掘調査等事業
史跡上之国花沢館跡	上ノ国町字勝山 172-1,173	013625	C-02-70			平成17年7月25日～平成17年9月16日	260㎡	町内遺跡発掘調査等事業
所収遺跡名	種類	主な時代	主な遺構	主な遺物			特記事項	
上ノ国市街地道跡(山本吉春氏宅地点)	遺物包含地	縄文 統縄文 撥文 中世 近世	溝 柱穴	土器・石器 縄文土器、統縄文土器 撥文土器 陶磁器・土器 青磁、白磁、染付、瀬戸・美濃、珠洲、越前、備前、志野、唐津、肥前系陶磁器他、かわらけ 鉄製品 鋳、釘、刀了、鍋、ヤス?、鑲他 銅製品 煙管、釘、筭、銭他 骨角器、漆器、陶 錘、須恵器 その他				
史跡上之国花沢館跡	城館	中世	空壕、土塁、櫓列 土塹、溝、柱穴他	陶磁器 青磁、白磁、珠洲 鉄製品 釘、鎌、茶釜? 銅銭、茶臼、石器 不明土器、不明骨				

町内遺跡発掘調査事業報告書Ⅹ 調査編

上ノ国市街地遺跡（山本吉春氏宅地点）
史跡上之國花沢館跡分布調査

発行 上ノ国町教育委員会
北海道桧山郡上ノ国町字大留100
印刷 平成18年3月28日
発行 平成18年3月31日
印刷所 株式会社印刷

